

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年6月26日
【事業年度】	第76期（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）
【会社名】	株式会社三栄コーポレーション
【英訳名】	SANYEI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 水越 雅己
【本店の所在の場所】	東京都台東区寿4丁目1番2号
【電話番号】	東京(03)3847 - 3500(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部副本部長兼財務部長 岡崎 克則
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区寿4丁目1番2号
【電話番号】	東京(03)3847 - 3500(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部副本部長兼財務部長 岡崎 克則
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
売上高 (千円)	33,050,887	33,976,075	38,654,214	36,688,565	39,861,723
経常利益又は経常損失( ) (千円)	446,758	657,569	258,823	1,248,089	2,149,028
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失( ) (千円)	717,448	945,339	158,056	538,137	974,483
包括利益 (千円)	6,806	1,218,117	121,282	1,575,679	2,186,727
純資産額 (千円)	11,351,069	10,104,313	10,197,635	11,495,517	13,429,876
総資産額 (千円)	24,055,629	20,782,581	19,652,324	21,227,651	23,707,967
1株当たり純資産額 (円)	1,186.93	1,050.64	1,054.35	1,221.19	1,411.75
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( ) (円)	75.81	99.51	16.55	56.46	103.09
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	55.77	102.80
自己資本比率 (%)	46.7	48.1	51.3	53.7	56.4
自己資本利益率 (%)	6.4	8.9	1.6	5.0	7.9
株価収益率 (倍)	7.1	4.1	24.4	12.0	9.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	763,207	755,432	973,459	529,685	3,775,790
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	187,010	83,469	115,689	118,556	82,407
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,846,820	1,084,773	1,240,364	676,051	689,436
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	6,246,431	4,599,863	4,444,980	4,442,159	7,721,166
従業員数 (名)	748	699	627	576	490
[ 外、平均臨時雇用者数 ]	[473]	[397]	[348]	[307]	[280]

(注) 1 第72期、第73期および第74期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失のため、記載しておりません。

2 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第73期の期首から適用しており、第73期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

3 当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第72期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( )及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

4 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準については第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用し、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)については第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、当連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
決算年月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月	2025年3月
売上高 (千円)	20,310,995	15,099,724	15,159,888	20,499,537	24,917,456
経常利益又は経常損失( ) (千円)	233,561	479,954	125,477	843,948	775,372
当期純利益又は当期純損失( ) (千円)	699,343	511,447	132,429	446,951	677,761
資本金 (千円)	1,000,914	1,000,914	1,000,914	1,000,914	1,000,914
発行済株式総数 (株)	2,552,946	2,552,946	2,552,946	2,552,946	10,211,784
純資産額 (千円)	8,385,867	7,223,814	7,322,561	8,387,918	9,696,898
総資産額 (千円)	18,610,695	15,306,613	14,392,943	16,445,512	17,281,363
1株当たり純資産額 (円)	877.61	751.89	758.18	893.30	1,023.10
1株当たり配当額 (円)	20.00	20.00	20.00	80.00	61.00
(内1株当たり中間配当額) (円)	(10.00)	(10.00)	(10.00)	(10.00)	(40.00)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( ) (円)	73.90	53.84	13.87	46.89	71.70
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	13.65	46.32	71.50
自己資本比率 (%)	44.7	46.7	50.4	50.7	56.1
自己資本利益率 (%)	8.5	6.6	1.8	5.7	7.5
株価収益率 (倍)	7.2	7.6	29.1	14.4	13.3
配当性向 (%)	6.8	9.3	36.1	42.7	43.2
従業員数 (名)	108	108	103	121	108
[外、平均臨時雇用者数]	[55]	[51]	[46]	[53]	[61]
株主総利回り (%)	76.3	59.0	59.1	100.3	143.6
(比較指標：日経平均株価) (%)	(77.9)	(88.1)	(89.1)	(113.2)	(44.7)
最高株価 (円)	3,225	2,179	1,710	3,610	972 (3,852)
最低株価 (円)	1,990	1,569	1,338	1,430	809 (2,392)

(注) 1 最高株価および最低株価は2022年4月3日以前は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。なお、第76期の株価については株式分割後の最高株価および最低株価を記載しており、括弧内に株式分割前の最高株価および最低株価を記載しております。

2 第72期および第73期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失のため、記載しておりません。

3 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第73期の期首から適用しており、第73期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

4 当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第72期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失( )及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

5 当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第76期の1株当たり配当額61円00銭は、当該株式分割前の1株当たり中間配当額40円00銭と、当該株式分割後の1株当たり期末配当額21円00銭を合算した金額となっております。株式分割を考慮した場合、中間配当額40円00銭は、10円00銭となりますので年間配当額は31円00銭となります。

6 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。なお、2022年改正会計基準につ

いては第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いを適用しております。この結果、当事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

## 2【沿革】

当社（1946年10月1日創業）は、株式の額面金額を500円から50円に変更する目的のため、1950年2月20日設立の㈱大産商店（1971年12月株式会社三栄コーポレーションに商号変更）を形式上の存続会社として、1971年12月1日を合併期日に吸収合併いたしました。

従って、以下の記載は、実質上の存続会社について記載しております。

1946年10月	大阪市南区に身辺装飾品の輸出を主とする共栄商会を創業。1948年2月共栄貿易㈱（資本金195万円）に改組。 続いて人的、資本的関係のある会社が次の順序で設立されました。 1949年9月名古屋市東区に陶磁器の輸出を主とする昭栄貿易㈱（資本金100万円）を設立。 1950年3月東京都台東区に生活関連用品の輸出を主とするアトラス雑貨貿易㈱（資本金300万円）と 1951年9月に共和貿易㈱（資本金80万円）が設立され、アトラス雑貨貿易㈱と共和貿易㈱は、1954年6月に合併し、東栄貿易㈱（資本金380万円）と改称。
1958年 1月	香港に香港三栄洋行を創業。1962年7月三栄洋行有限公司（現・連結子会社）に改組。
1961年 2月	共栄貿易㈱（大阪市）、昭栄貿易㈱（名古屋市）、東栄貿易㈱（東京都）は業容の拡大に伴い、生活関連用品の総合商社を目標に三社を吸収合併する目的のため、その母体として東京都台東区に三栄貿易㈱（資本金2,000万円）を設立。
1961年10月	三栄貿易㈱は共栄貿易㈱、昭栄貿易㈱、東栄貿易㈱を吸収合併し、本店を東京都台東区に設置し、共栄貿易㈱を大阪支社、昭栄貿易㈱を名古屋支社、東栄貿易㈱を東京支社としました（資本金1億円）。
1967年 6月	ドイツのデュッセルドルフ市に駐在員事務所を設置。1969年5月 SANYEI (DEUTSCHLAND) G.m.b.H（現・連結子会社）に改組。
1971年12月	三栄貿易㈱は株式の額面金額変更のため、1950年2月20日設立の㈱大産商店に吸収され、㈱大産商店は社名を㈱三栄コーポレーションと改称（資本金3億円）。
1973年 9月	マレーシアのクアラルンプールに SANYEI CORPORATION (MALAYSIA) SDN. BHD. を設立（現・連結子会社）。
1978年 7月	香港に三發貿易有限公司を設立。1992年7月三發電器製造廠有限公司と改称。
1978年 9月	香港に佳豪実業有限公司を設立。1983年7月三栄電器香港有限公司と改称。
1979年 1月	東京店頭市場に株式を公開（資本金3億3千万円）。
1986年 7月	香港に TRIACE LIMITED を設立（現・連結子会社）。
1988年 3月	中国に上海駐在員事務所を設置。
1998年10月	千葉県松戸市に㈱ペットランドを設立（現・㈱ペビカ 現・連結子会社）。
2001年10月	中国に青島駐在員事務所を設置。
2002年 5月	東京都台東区に㈱ビルケンシュトックジャパンを設立（現・㈱ベネクシー 現・連結子会社）。
2002年10月	中国に三暉国際貿易（上海）有限公司を設立（現・連結子会社）。
2003年 7月	三發電器製造廠有限公司と三栄電器香港有限公司を合併し、三發電器製造廠有限公司（現・連結子会社）を存続会社とする。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2005年12月	㈱ビルケンシュトックジャパンの本社事務所を東京都港区に移転。
2007年 4月	愛知県名古屋市東区に㈱エス・シー・テクノを設立。
2007年 7月	東京都墨田区の㈱mhエンタープライズを子会社化。
2007年12月	千葉県松戸市に㈱リリーベットを設立（現・連結子会社）。
2011年 4月	中国に三發電器製品（東莞）有限公司を設立（現・連結子会社）。
2011年 5月	中国に三栄貿易（深圳）有限公司を設立（現・連結子会社）。
2011年12月	東京都台東区にヴェーエムエフ ジャパン コンシューマーグッズ㈱を設立。2017年10月㈱エッセンコーポレーションと改称。
2012年 5月	㈱mhエンタープライズの本社事務所を東京都台東区に移転。
2012年10月	東京都台東区に㈱L & S コーポレーションを設立（現・連結子会社）。

2013年10月	普通株式5株につき1株の株式併合を実施、単元株式数を1,000株から100株に変更。
2015年 8月	(株)エス・シー・テクノの本社事務所を東京都台東区に移転。
2015年 9月	(株)ペットランド、(株)リリーベットの本社事務所を千葉県市川市に移転。
2016年 4月	(株)ビルケンシュトックジャパンを(株)ベネクシーに商号変更。
2016年 8月	(株)ペットランドを(株)ペピカに商号変更。
2016年10月	創業70周年を迎える。
2019年10月	ベトナムのホーチミンにTRIACE VIETNAM COMPANY LIMITEDを設立（現・連結子会社）。
2019年11月	(株)ベネクシーの本社事務所を東京都千代田区に移転。
2020年 1月	(株)エス・シー・テクノと(株)m hエンタープライズを合併し、(株)ゼリックコーポレーションに商号変更。
2021年 3月	台湾の台北市に台湾三栄貿易股份有限公司を設立（現・連結子会社）。
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のJ A S D A Q（スタンダード）からスタンダード市場に移行。
2023年 4月	(株)ゼリックコーポレーションを吸収合併。
2024年 2月	(株)エッセンコーポレーションを解散。
2024年 5月	(株)ベネクシーの本社事務所を東京都台東区に移転。
2024年10月	普通株式1株につき4株の株式分割を実施。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、当社および子会社16社で構成されており、国内・海外拠点ともに生活関連用品事業を主たる業としております。

セグメントごとの主な事業内容ならびに当該事業の位置づけは、次のとおりであります。

#### （1）報告セグメント

報告セグメントの名称	主要な事業内容	主な会社名
家具家庭用品事業	リビング家具、ダイニング家具、子供用家具、キッチン関連用品、インテリア用品、収納用品等の企画・輸出輸入販売	当社 三暉国際貿易(上海)有限公司 TRIACE LIMITED TRIACE VIETNAM COMPANY LIMITED 三栄貿易(深圳)有限公司 台湾三栄貿易股份有限公司
	マットレス等の製造・輸出販売	SANYEI CORPORATION(MALAYSIA) SDN. BHD.
服飾雑貨事業	服飾雑貨等の企画・輸出輸入販売	当社 TRIACE LIMITED 三暉国際貿易(上海)有限公司
	国内外フットウエアの販売、セレクトショップの運営	(株)ベネクシー
	ファッションバッグ等の輸入販売	(株)L & S コーポレーション
家電事業	理美容家電、調理家電、家事家電等の企画・輸出輸入販売	当社
	OEM製品の輸出、ODM製品・自社製品の輸出	三發電器製造廠有限公司
	OEM製品の製造、ODM製品・自社製品の開発・製造販売	三發電器製品(東莞)有限公司
	OEM製品の輸出輸入販売	三暉国際貿易(上海)有限公司

#### （2）その他のセグメント

セグメントの名称	主要な事業内容	主な会社名
その他	ペットショップの運営	(株)ペピカ
	動物病院の運営	(株)リリーベツト
	輸送資材・生活雑貨等の企画・販売	(株)サムコ
	事務代行業務	三栄興産(株)
	リエゾン活動（欧州市場向け取引における支援活動・情報収集）	SANYEI (DEUTSCHLAND) G.m.b.H

以上を事業系統図によって示すと、次のとおりとなります。

## 事業系統図

国 内 ・ 海 外	販 売	( 海外販売会社 )	報告セグメント			その他
			家具 家庭用品	服飾雑貨	家 電	その他
		SANYEI CORPORATION (MALAYSIA) SDN.BHD. (マレーシア)		-	-	-
		三暉国際貿易 (上海) 有限公司 (中国)				-
		三發電器製造廠有限公司 (香港)	-	-		-
		三發電器製品 (東莞) 有限公司 (中国)	-	-		-
		TRIACE LIMITED (香港)			-	
		TRIACE VIETNAM COMPANY LIMITED (ベトナム)		-	-	-
		三栄貿易 (深圳) 有限公司 (中国)		-	-	-
		SANYEI (DEUTSCHLAND) G.m.b.H (ドイツ)	-	-	-	
台湾三栄貿易股份有限公司 (台湾)		-	-	-		
		販売	販売	販売	販売	
国 内 ・ 海 外	仕 入					
		(株)三栄コーポレーション				-
			販売	販売	販売	販売
		( 国内販売会社 )				
		(株)サムコ	-	-	-	
		(株)ベピカ	-	-	-	
		(株)ベネクシー	-		-	-
		(株)L & S コーポレーション	-		-	-
客 ・ 顧 ・ 販 売	仕 入 先	( サービス会社等 )				
		三栄興産(株)	-	-	-	
		(株)リリーベット	-	-	-	
		三栄洋行有限公司 (香港)	-	-	-	

(注) 1 関係会社別に当該セグメントを取り扱っている場合には とし、取り扱っていない場合には として表記しております。

2 三栄興産(株)は、当社グループ向けサービス業を主業としております。

## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有（被所有）割合		関係内容
				所有割合（％）	被所有割合（％）	
（連結子会社）						
三栄洋行有限公司	香港 九龍	千HK\$ 2	その他	100.0	-	役員の兼任1名
SANYEI CORPORATION (MALAYSIA) SDN. BHD.（注）4	マレーシア クアラルンプール	千MYR 1,000	家具家庭用品	100.0 (100.0)	-	役員の兼任1名
㈱ペピカ	千葉県市川市	千円 100,000	その他	100.0	-	担保被提供
㈱リリーベツト（注）4	千葉県市川市	千円 7,000	その他	70.0 (70.0)	-	-
TRIACE LIMITED（注）2、6	香港 九龍	千HK\$ 15,000	家具家庭用品、服飾雑貨	100.0	-	役員の兼任2名 生活関連用品の購入
三發電器製造廠有限公司（注）2、4	香港 九龍	千HK\$ 25,000	家電	100.0 (100.0)	-	役員の兼任1名
三發電器製品（東莞）有限公司（注）2、4	中国 東莞	千RMB 16,693	家電	100.0 (100.0)	-	役員の兼任1名
㈱サムコ	東京都台東区	千円 50,000	その他	100.0	-	-
㈱ベネクシー（注）5	東京都台東区	千円 90,000	服飾雑貨	100.0	-	-
SANYEI (DEUTSCHLAND) G.m.b.H	ドイツ デュッセルドルフ	千EURO 51	その他	100.0	-	役員の兼任1名
三栄興産㈱	東京都台東区	千円 28,200	その他	100.0	-	-
三曄国際貿易（上海）有限公司（注）2	中国 上海	千RMB 3,310	家具家庭用品、服飾雑貨、家電	100.0	-	役員の兼任1名 生活関連用品の購入
三栄貿易（深圳）有限公司（注）4	中国 深圳	千RMB 1,000	家具家庭用品	100.0 (100.0)	-	役員の兼任1名
㈱L & S コーポレーション（注）5	東京都台東区	千円 90,000	服飾雑貨	100.0	-	債務保証
TRIACE VIETNAM COMPANY LIMITED（注）4	ベトナム ホーチミン	千VND 2,306,900	家具家庭用品	100.0 (100.0)	-	-
台湾三栄貿易股份有限公司（注）2、4	台湾 台北	千NT\$ 50,000	家具家庭用品	100.0 (100.0)	-	役員の兼任1名



- (注) 1 主要な事業の内容欄は、セグメント別に記載しております。
- 2 特定子会社に該当しております。
- 3 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
- 4 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数となっております。
- 5 (株)L & Sコーポレーションおよび(株)ベネクシーは、債務超過会社で、債務超過の額は2024年12月末時点でそれぞれ2,389百万円、2,290百万円となっております。
- 6 TRIACE LIMITEDについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要科目	TRIACE LIMITED
売上高(百万円)	11,990
経常利益(百万円)	1,172
当期純利益(百万円)	1,030
純資産額(百万円)	2,950
総資産額(百万円)	4,977

- 7 前連結会計年度において連結子会社であった(株)エッセンコーポレーションは解散し、当連結会計年度において清算結了したため、連結の範囲から除外しております。

## 5【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

2025年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（名）
家具家庭用品事業	125 (56)
服飾雑貨事業	199 (73)
家電事業	64 (118)
報告セグメント計	388 (247)
その他	102 (33)
合計	490 (280)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は( )内に平均人員を外数で記載しております。

2 従業員数が前連結会計年度末に比べ86名(臨時従業員は平均27名)が減少した主な理由は、服飾雑貨事業セグメントでの小売店舗閉鎖に係るスタッフの退職および家電事業セグメントでの構造改革に係る中国工場のスタッフ・工員の退職によるものです。

## (2) 提出会社の状況

2025年3月31日現在

従業員数（名）	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与（円）
108 (61)	44才7ヶ月	11年2ヶ月	7,158,284

セグメントの名称	従業員数（名）
家具家庭用品事業	25 (26)
服飾雑貨事業	42 (15)
家電事業	30 (16)
報告セグメント計	97 (57)
その他	11 (4)
合計	108 (61)

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(契約社員等)は( )内に平均人員を外数で記載しております。

2 従業員(臨時従業員を除く)の平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

労使関係について特記すべき事項はありません。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異  
提出会社

当事業年度	
管理職に占める女性労働者の割合(%) (注) 1	男性労働者の育児休業取得率(%) (注) 2
15.4	100.0

- (注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定による公表義務はありませんが、P15「(4) 人的資本・多様性に関する取り組み」に記載のとおり、指標として用いております。
- 2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。
- 3 労働者の男女の賃金の差異につきましては、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定による公表義務がないため、記載を省略しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

#### (1) 企業理念・経営ビジョン・行動規範

<企業理念>：「随縁の思想」

当社グループは、企業理念として創業以来「随縁の思想」を掲げています。「随縁」とは、「縁に随（したが）い縁を活かす」ことであり、人と人との出会い、そこから生まれる絆を大切に思い、互いに尊重し合い、助け合い、発展し合う、という思想のことを言い表したものです。

<経営ビジョン>：「三栄コーポレーションは真に優れた生活用品を提供します。『健康と環境』をテーマに健やかで潤いのある暮らしを創造します。」

当社グループはこの経営ビジョンの下、くらしに良いものを提供することで、持続的な企業の存続と、ステークホルダーの皆さまを始めとする社会全体の利益となることを経営の基本方針としています。

<行動規範>

1. 私たちは、小さなことを誠実に行います
2. 私たちは、助け合いのころを大切にします
3. 私たちは、感謝の気持ちを忘れません
4. 私たちは、機を逃しません
5. 私たちは、地球の未来を考え行動します

当社グループの企業活動は、そのいずれもが、互いに尊重し合い、助け合い、発展し合う、三栄のころである「随縁の思想」にささえられています。行動規範は、この企業理念の下、当社グループ全ての役員・従業員が、常日頃、いかに判断し、行動して行くべきか、と言う基準を示したものです。

#### (2) 中長期的な経営戦略

経営ビジョンを追求し、生活用品の分野において強い存在感を確立します。

また、収益向上に注力し、2033年度までに、経常利益40億円以上（経常利益率7%以上）の実現を目指します。

当社は、以下の中期経営戦略『SANYEI 2025』を策定しました。

期間：2023年度～2025年度

定性目標：「健康と環境」をテーマに、生活用品の取り扱いを通じ、サステナブル社会の実現に貢献する企業として企業価値向上を図り、「三栄コーポレーション（SANYEI）」の新たなブランディングに着手します。

定量目標：本戦略期間最終年度までに、売上高500億円、経常利益20億円（経常利益率4%）を達成します。

2025年3月期をもって、中期経営戦略『SANYEI 2025』の第2年度が終了しました。第2年度におきましては、経常利益21億4千9百万円を達成し、第3年度の目標としていた経常利益20億円を1年前倒しで達成したものの、未だ当社の収益基盤は盤石とは言えません。

2026年3月期においては、長期目標である2033年経常利益40億円の達成に向けた土台固めとすべく、成長ドライバーである『海外取引の拡大 EC事業の強化 「健康と環境」に則ったサステナブルビジネスの追求』を軸に、利益体質の強化を推し進めます。

##### 1. 基本方針

「健康と環境」を主要テーマに堅持、生活用品を事業ドメインに設定。その上で、モノづくりのプロ集団として、本質において秀逸なものを追求し、サステナブル社会の実現に貢献します。

従業員の生活者としての立ち位置を確認・強化することで、会社の原動力の基礎とすると同時に、従業員のワークライフバランスの充実につなげます。

変化、予測不可能な時代にあって、スピード感をもって商品、サービス、販路、市場を開拓します。

ガバナンス強化を図りながら、一人一人、或いは組織ごとの収益力を着実に向上させます。

##### 2. 重点施策

グループ事業構造、事業ポートフォリオの見直し

- \* 商品事業部制の深化による専門性強化
- \* 販売面、マーケティング面における、グループ内フレキシブルなプロジェクト編成
- \* 低採算事業の整理促進、新規事業の開拓強化
- \* PDCAサイクルの高度化、ROIC経営を目指す
- \* グループ内業務標準化の促進
- \* 管理部門機能のグループ内統合の促進

#### スピード感のある新規取組の促進

サプライチェーンに立脚し、大きなインフラを保有しない貿易商社ならではの、スピード感を実現します。

＊生活者目線での、新規商品、サービス、ブランドの開拓

生活者へのアプローチ手法としてのネット事業の拡大強化

＊「健康と環境」ビジネスを収益モデルとして確立・強化

＊海外市場を、生産市場、販売市場の両面で強化

#### ワークライフバランス

＊生活者である従業員のライフの充実が、ワークの効率生産性の向上につながる就労環境の実現

＊生活者としての従業員の声が、経営に直接つながる体制整備

#### ガバナンスの強化

迅速、果敢な意思決定の実現と、意思決定の透明性、公平性を確保する内部統制システムの高度化により、攻めと守りのガバナンス体制を一層強化、サステナブル企業としての位置づけを確立します。

### 3. サステナブル社会の実現に貢献

「健康と環境」をテーマに、長く愛される生活用品を提供する事業を行っている当社は、このような事業がお客様のサステナブルな生活の実現、ひいては、サステナブルな社会の実現に資するものと考えています。加えて、最近の環境負荷低減に向けた社会的要請の拡大に、具体的に、真摯に対応することで、三栄コーポレーションの企業価値を向上させ、「SANYEI」のブランディングに着手し、より一層、求められる企業となることを目指します。

#### (3) 経営環境

世界各所での戦渦に象徴される、地政学リスクの拡大に加えて、各国での選挙結果、およびそれに伴う政権交代等により政治・経済状況が変動するなか、将来への不確実性の懸念も拡大しています。このような世界、あるいは当社を取り巻く環境を踏まえて、現下の変化への具体的な対応も求められるなか、当社グループでは従来より、お客様ブランドの製品にまつわる製造・品質管理・物流まで一貫したサービスとサポートを提供するOEM事業と、OEM事業によって培ってきた知識と経験とを活用し、自社ブランドの開発や、国内外の秀逸なブランドを発掘、販売するブランド事業という、二つの事業の相乗効果を追求するビジネスモデルを展開しています。

OEM事業では、近年の競争環境の激化、あるいは、原材料・資源価格の上昇、為替市況の動き、また物流環境が厳しさを増すといった、様々なコストの高止まりが継続しているなか、これに端を発した物価上昇の動きへの対応が求められていることに加えて、お客様が当社に求める機能・価値そのものにも変容が認められています。

こうした状況下、当社はこれまでの知見・ノウハウを活かして、消費者ニーズを先取りした提案力の強化や、綿密なモノづくり力と専門性の発揮、独自の海外ネットワークの活用等に加えて、ローコストオペレーションを不断に推し進めることで、お客様が求める品質、価格競争力の両立の実現を図っていくだけではなく、新規の商流・商材、サービスの開拓等の新たな付加価値の創造にも注力しています。

ブランド事業においても、更なる多角的な動きを進めています。当社グループにおいては、本質において秀逸なものの追求を基軸に、新規性や、機能、サステナビリティと言った点をテーマとした、消費者からの共感、支持を得られる新規ブランド、独自ブランドをこれからも展開して参ります。「くらしに、良いものを。」を当社の経営ビジョンのステートメントとしていますが、新しいブランド価値の発掘、それぞれのブランドにあった、マーケティング施策、販売戦略を積極的に展開するとともに、取扱いブランドの改廃もタイムリーに進めることで、事業ポートフォリオの適正化を常に図り、当社グループの成長戦略のコア事業の一つとして、収益基盤の強化、環境変動に耐え抜くレジリエントな企業体質の維持に努めて参ります。

#### (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

黒字体質の維持強化を図るための具体的な経営課題は、次のとおりです。

##### グループ事業構造の見直し

本社および国内外関係会社のそれぞれの事業遂行上の役割を見直し、それぞれの機能強化、また相互の関係強化により商品事業部制全体の強化、さらにグループ全体をカバーする経営企画機能の高度化も図ることにより、収益基盤や事業基盤の改善・強化を目指します。

##### 事業ポートフォリオの見直し

企業の持続的な発展を目指すためには、事業ポートフォリオの見直しを継続的に実施する必要があります。その際に考慮する判断指標として、ROICや在庫効率等も採用し、それに基づく事業の選択と集中を推し進めることで、資本効率を意識した経営に努めています。

また、環境関連案件等、今後の成長が期待出来る分野については、PDCAサイクルの徹底により収益性を見極めつつ、新たなビジネスチャンスに積極的に取り組んでいくことで、足元はもとより将来を見据えた収益基盤の改善・強化を図ります。

#### コスト構造の見直し

グローバルサプライチェーンの最適化による経費の低減に加えて、基幹システムの更なる活用によるグループ内業務の標準化と集約による効率化（コモンキッチン化）により、当社グループ全体のコスト低減を目指すことから、収益基盤の改善・強化に努めます。

#### 人的資本経営の推進

当社は、貿易を祖業とし、世界の様々な国に拠点を構えて事業を展開しており、これまでも、多種多様な価値観を理解・尊重し、認め合い、協力し合うことで、グループ全体の総合人材力を最大限に引き出して、企業価値を高めることに努めていますが、改めて、人材を利益を生む力と捉え、ジェンダーや年齢・国籍にかかわらず経営戦略に呼応した人材の採用や教育育成施策などを推し進めることで、事業基盤の改善・強化を目指します。

#### 働き方改革を推進する為の社内環境の整備

ワークライフバランスの推進など、従業員一人ひとりが生き活きとその能力を最大限に発揮できる安全で健康的な就労環境を確保し、心身ともに社員の健康増進を図ることができれば、自ずと企業の生産性向上に繋がるものと考えており、従来以上に、柔軟な働き方の整備を推進すると共に、待遇・福利厚生の実質化や、グループ内人事交流の活性化などを通じて、事業基盤の改善・強化に努めます。

#### 内部管理体制の高度化

より迅速かつ果断な意思決定を可能とする決裁権限体系の見直しや権限委譲をさらに推し進め、攻めのガバナンス体制の強化を行うとともに、内部統制システムの高度化を図ることにより守りのガバナンス体制を強化することで、事業基盤の改善・強化に努めます。

なお、本項には将来に関する事項が含まれていますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものです。

## 2【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりです。

### (1) サステナビリティ基本方針

当社グループの持続的な企業価値の向上と事業を通じた社会課題の解決に取り組むため、取締役会決議を経て、以下のサステナビリティ基本方針を策定しています。

「私たちは、経営ビジョンの実践を通じて、サステナブルな社会や環境づくりに貢献します

三栄コーポレーション・グループは、人と人との繋がりを大切にする「随縁の思想」を企業理念とし、「健康と環境」をテーマに、真に優れた生活用品の提供を通じて、健やかで潤いのある暮らしを創造すること、「くらしに、良いものを。」を経営ビジョンとしています。

日々の暮らしに喜びや楽しさをもたらしてくれる「良いもの」を提供すること、そのための努力を積み重ね、三栄コーポレーション・グループ行動規範を心構えとして、私たちらしくサステナブルな社会や環境づくりに貢献することを目指します。」

### (2) マテリアリティ

当社グループが持続的な成長を成し遂げるため、具体的に必要な重要課題として、同じく取締役会決議を経て、以下のマテリアリティを特定しています。

〔事業を通じた社会的価値の創出〕

- ・「健康と環境」をテーマに、本質において秀逸な生活用品を追究
- ・持続可能なサプライチェーンの構築
- ・世の中の変化以上のスピード感を持った新しい事業/取り組みへの挑戦
- ・ステークホルダーとの価値の共有、信頼関係の強化

〔持続的成長を支える基盤の整備〕

- ・生活用品を事業ドメインとする専門性のある組織の更なる進化・発展
- ・他者との協働を通じて価値を創造する人材の確保、教育、ならびに活躍の場の提供
- ・従業員がワークライフバランスを実感し生活者視点を常に意識することができる働き甲斐のある環境の整備
- ・迅速・果敢な意思決定の実現と内部統制システムの高度化による、攻めと守りのガバナンス体制の強化

### (3) サステナビリティ全般に関する取り組み

ガバナンス

〔サステナビリティ推進体制〕

当社は、サステナビリティに関わるリスクを、当社グループの経営成績や財政状態に大きく影響を及ぼす可能性のある特定リスクと判断し、取締役会決議により、リスクマネジメント委員会傘下の特定リスク委員会の1つとしてサステナビリティ委員会を設置しています。サステナビリティ委員会は、営業本部長を委員長、管理本部長及び総務・人事本部長を副委員長に任命し、社内横断的にメンバーを招集して、経営ならびに執行の全方位からサステナビリティに関する課題に取り組む体制としています。代表取締役も参画しており、重要項目については、リスクマネジメント委員会を経由して、取締役会に諮ることになります。

〔サステナビリティ委員会の活動状況〕

マテリアリティにおける機会とリスクを特定し、あるべき方向性を定め、目標設定の上で具体的な施策に落とし込む活動を実施しています。

具体的な一例としては、英国のNGO団体であるCDP (Carbon Disclosure Project) への参画を継続中です。これは、当社グループとしてのGHG排出量の理論値を把握したうえで、その削減に向けての事業活動を推進し、その活動を公表することでステークホルダーの皆さまの評価をいただくことを目的とするものです。

リスク管理

サステナビリティ委員会では、マテリアリティの課題を一步步つ推進するため、各マテリアリティの“リスクと機会”を特定し、中期経営戦略とも連動させ、各組織の施策をモニタリングすることでリスク管理を図っています。

具体的なリスクの一例としては、学校教育の中でSDGsに関するテーマを学ぶ機会が確実に増えていることや、気候変動による環境意識の高まりによりエシカル消費機運が高まっていることから、当社の取扱う商品やサービスと消費者行動の変化が合致しないリスクがあるため、当社ではエシカル消費を促すブランドを積極的に取り扱っています。東京都の推進する「東京エシカル」等、持続可能性を目指すプログラムとも連携しており、前年度に引き続き、2024年度には、中高生を対象とした東京都との協働イベントを自社で開催するなど、サステナブル社会の実現とエシカル消費に対する意識を高める活動を行いました。

また、当社はアジアをはじめ世界各国で取引を展開しており、サプライチェーン全体を通して、児童労働や長時間労働などの人権侵害、あるいは環境破壊や地域住民の権利侵害などが発生することによるリスクがあるため、仕入先協力工場の選定においては、工場審査などを実施し、法令遵守、人権保護の徹底に取り組んでいます。

このように、消費者行動の変化に敏感に対応できる活動等も取り込みながら、「健康と環境」をテーマに掲げる経営ビジョンの下、事業・組織運営に努め、サステナブルな社会の実現に貢献できる企業経営と利益創出の両立を目指していきます。

#### 戦略

サステナビリティの課題として、気候変動ならびに人権問題は、政策・法規制リスクや調達コストの増加、物流網の分断・停滞といった直接の変化のみならず、消費行動を変容させる影響もあると考え、当社グループの事業に大きな影響を及ぼすリスクにつながる可能性があり、これらへの対応は重要な経営課題と捉えています。

そのため、消費者やお客様の要求に応えられるよう、商品のみならず、法規制、物流、調達、消費者マインドの急速な変化に対応するために必要な体制構築・運営を継続して行っています。

#### 指標及び目標

マテリアリティ設定時に、グループ内各部署でサステナビリティに関わるリスクと機会の特定を行っており、グループとしての数値目標は、現状、設定してはおりませんが、課題認識とあるべき方向性を定め、定期的に部署毎の進捗度合いを確認することにより、取り組み強化を図っています。

### (4) 人的資本・多様性に関する取り組み

#### 戦略

当社は、貿易を祖業とし、世界の様々な国に拠点を構えて事業を展開しており、これまでも企業理念である「随縁の思想」の下、多様な価値観を理解・尊重し、認め合い、協力し合うことで、グループ全体の総合力を最大限に引き出して、企業価値を高めることに努めています。マテリアリティのひとつにも「他者との協働を通じて価値を創造する人材の確保、教育、ならびに活躍の場の提供」を掲げており、人材を利益を生む力と捉え、更なる人的資本経営を推し進めることで、企業基盤の強化を図ります。斯かる戦略のもと、当社では、以下の人材育成方針および社内環境整備方針を定めています。

#### 人材育成方針

「健康と環境」をテーマとする当社の社員には、その一人ひとりが生活者としての立ち位置を大切に、生活用品の分野で専門性を高めることが求められます。その上で、多彩な価値観をも理解・尊重し、相互に協力しあうことが、グループ全体の総合人材力を一層引出すと考えます。こうした考えに基づき、当社グループの持続的成長と中長期的な企業価値向上の原動力となる人材を育成してまいります。

#### 社内環境整備方針

当社グループは、多様な人が集まり、お互いに助け合い、自由闊達な企業風土を醸成するとともに、個性を尊重し合い、社員一人ひとりが活き活きとその能力を最大限に発揮できる安全で健康的な職場環境を目指して、職場の安全の確保と社員の健康増進、生産性の向上、柔軟な働き方の整備を推進します。

2024年度の主な取組みとしては、女性取締役の選任、社員サーベイの結果に基づく柔軟な働き方推進策の実行、新規ビジネスの発掘を目的とした社内公募の実施などが挙げられます。



指標及び目標

当社は、上記において記載した、人材育成方針や社内環境整備方針について、次の指標を用いています。当該指標に関する実績及び目標は、次のとおりです。

[対象範囲：株式会社三栄コーポレーション]

指標	実績（2025年3月期末）	目標（2026年3月期末）
女性取締役（ 1 ）	1人	1人以上
管理職に占める女性の割合	15.4%	15%-30%程度
管理職に占める外国人の割合	2.5%	5%-10%程度
管理職に占める中途採用者の割合	47.5%	40%-60%程度
男性従業員の育児休業取得率	100.0%	50%（2026年3月期までの年度平均）

（ 1 ）当社は、第74回定時株主総会において、社外取締役（監査等委員）として、女性取締役を1名選任しています。

ご参考[対象範囲：三栄コーポレーション・グループ]

指標	実績（2025年3月期末）
女性取締役	5人
管理職に占める女性の割合	38.5%

なお、本項には将来に関する事項が含まれていますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものです。

### 3【事業等のリスク】

当社グループは、日本国内および海外において、生活用品を中心に多岐に亘る商品を提供するOEM事業と、自社ブランドあるいは本質にこだわった海外の秀逸なブランドの卸売および小売を行うブランド事業を展開しています。

こうした事業活動の性質上、先行き予測が困難で不確実性の高い様々なリスクが内在しており、当該リスクが顕在化した場合には、将来の当社グループの事業活動や経営成績、財政状態などに大きく影響を及ぼす可能性があります。このようなリスクを完全に排除することは困難ですが、当社グループではリスクマネジメント規程に基づき設立された組織横断的な各種の特定リスク委員会を定期的開催、リスクの適切な認識、迅速な対応を図ることで、リスクの極小化を図っています。

#### 地政学リスクについて

当社グループは、わが国のみならず世界各地で事業活動を営んでいるため、当社グループの事業活動は、主要国における政権交代による制度変更や、世界各国における政治経済社会情勢の変化や国家間紛争、あるいは、大規模な自然災害の発生や感染症の世界的な蔓延など、様々な環境変化に伴うリスクに晒されており、当社グループの事業や業績に重大な影響を及ぼす可能性もあります。こうしたリスクの回避や低減を図るため、当社では、リスクマネジメント委員会傘下のカントリーリスク委員会が世界情勢の変化に伴う様々なリスクの評価や対応策を検討する体制のほか、危機管理基本マニュアルに基づいて、常設の危機対策本部事務局が平時の準備活動を担うとともに、危機発生時には遅滞なく事業継続計画（BCP）を発動することで、円滑な事業の回復・継続に即応する体制を構築しています。

#### サステナビリティに関するリスクについて

地球温暖化が環境に及ぼす影響への懸念が依然強まるなか、その具体的な対応策の策定は、経済発展への阻害要因ともなりうるとの考え方も、一部には強まっています。

一方で、「健康と環境」を会社の最重要テーマとして、長年取り組んできた当社としては、昨今の「SDGs経営への取組」以前からの基本的な方針として、この課題に取り組んでおり、その課題認識は全く変わっていません。

いわゆる「サステナビリティに関するリスク」について、当社では新たなビジネスチャンスとも捉えています。気候変動リスクを始め、サステナビリティに関するリスクを当社の事業運営全般に関わるチャンスと表裏一体のリスクと捉え、その対応のためサステナビリティ委員会を設置して、取締役会における方針決定等の大局的な審議に資する情報収集や、事前審議を行うことで、全社横断的な監視、対応体制を整備しています。

また、仕入先協力工場における児童労働や長時間労働などの人権侵害、あるいは環境破壊や地域住民の権利侵害の発生は、人権侵害そのものだけでなく、当社および取引先に対する社会的信用の低下を招く恐れがあり、大きな課題、且つリスクでもあります。このようなリスクを回避するため、仕入先協力工場の選定にあたっては、当社判断および取引先の審査基準等に従い、人権保護を含めた法令遵守の徹底に取り組んでいます。

#### 人的リソースに関するリスクについて

少子高齢化社会の進行に伴う労働者人口の減少や働き方に対する労働者ニーズの多様化などにより、経営資源の根幹をなす人材の確保や育成が順調に進まない場合、当社グループの事業活動や経営成績、財政状態などに大きく影響を及ぼす可能性があります。

こうしたリスクを回避するため、当社では社員のキャリア形成や生産性向上に資する投資を進めており、自律的な学びを支援する研修制度や挑戦を促す施策を通して社員の成長を支援し、働き甲斐のある就労環境作りにも取り組んでいます。また、定年再雇用制度の整備や育児短時間勤務制度の対象拡大など柔軟な働き方に関する諸制度を整備し、社員が長く働きやすい環境作りに取り組んでいます。

さらに、キャリア採用に関する制度を整備するなど外部人材の積極的な登用も進めており、人材の確保と育成に努めています。

#### コンプライアンス(法令遵守)およびサイバーセキュリティに関するリスクについて

当社グループは、生活用品を中心に多岐に亘る商品を国内外で提供しており、わが国を含む世界各国で制定、施行されている各種法令および規制などを遵守することに努めています。しかしながら、複数の当事者を介して行う取引も多く、予防的措置を講じているにも関わらず、結果として法令や規制などに違反する事態に至るなど、場合によっては、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。また、これらの法令や規制などが大きく変更された場合には、取引の継続が困難となる可能性や必要な対策に多額の費用を要する可能性があります。

また、当社グループは、中期経営戦略における成長戦略の柱として、「EC事業の強化」を推進しており、販売活動で取得した個人情報・顧客情報などの漏えいにより多大な損害賠償責任を求められる、あるいは、漏えい等の事案対応のための費用負担が必要になる、当社の信用力低下に繋がるなどの可能性があり、さらにサイバー攻撃などの事例も年々増加するなか、情報セキュリティ全般に係わるリスクが高まっています。

こうしたリスクを回避するため、法務リスク委員会において法改正情報の入手や法令遵守の状況を監督しています。個人情報については、情報管理委員会を定期開催し、個人情報の管理体制を監督する体制を整備し、個人情報については万が一に備えてサイバーセキュリティ保険の付保により、リスク移転措置も講じています。当社グループの事業に密接に関係がある法律ごとにコンプライアンス・プログラム(OP)を策定・運用し、定期的に法令の趣旨や規制内容を社員にリマインドさせることにより、関係する法令の理解と法令遵守意識の定着化を図る仕組みを整備しています。

#### サプライチェーンに関するリスクについて

様々な生活用品を扱う事業をグローバルに行っており、原材料の調達から販売網の構築までのサプライチェーンは当社グループのビジネスの基盤ですが、外部環境の変化による原材料や輸送コストの高騰、関税率の変動など様々な要因により当社のビジネスに影響が出る可能性があります。

こうしたリスクを回避・低減するため、平時から調達ルート分散や代替素材の転用、販売ルートの多様化を進めるとともに、サプライチェーンへの影響の可視化を行い、万が一リスクが顕在化したときには、遅滞なく事業継続計画（BCP）を発動することで、損害の低減を講じるべくリスク事象への対応を行う体制を整備しています。

市場リスクについて

（為替変動リスク）

当社グループは、輸出入取引に付随し様々な為替相場の変動リスクに晒されており、円相場的大幅な変動により輸入商品の価格競争力が大幅に失われた場合には、当社グループの経営成績に大きな影響を与える可能性があります。

こうしたリスクを回避・低減するため、定期的開催される市場リスク委員会が為替相場の変動状況をチェックしています。なお、必要に応じて為替予約によるリスクヘッジを行っています。

（金利変動リスク）

当社グループは、おもに運転資金に充当するため、円建ておよび米ドル建ての借入があり、いずれも金利変動リスクに晒されています。最近の短期市場金利は上昇傾向にあり、急激な金利上昇が発生した場合は、当社グループの経営成績や財政状態に大きく影響を与える可能性があります。

このリスクを回避・低減するため、円建て借入については、CMS(キャッシュ・マネジメント・サービス)を利用したグループベースでの借入金残高の圧縮や、長期固定金利借入や実需の範囲内で金利スワップなどのリスクヘッジ手段を適宜導入することにより、金利変動リスクの抑制を図っています。

（流動性リスク）

当社グループは、仕掛品や製品在庫、設備投資などの運転資金ニーズに加え、危機管理下における事業継続のための資金繰りを支える流動性の確保も必要と考えています。事業継続等の観点から急激な増加資金需要にも耐えうる安定的なキャッシュ・フローを確保するため、取引金融機関との関係強化や資金調達手法の多様化に取り組んでいます。外貨流動性については、主取引銀行との間で中長期多通貨コミットメントラインを設定することにより、日本国内における米ドル資金調達時の流動性リスクをヘッジしています。

信用リスクについて

当社グループの取引には、国内外の取引先に対する売上債権等についての信用リスクが存在しています。取引先の信用状況が悪化し、当社グループに対する債務の履行に問題が生じた場合には、当社グループの経営成績および財政状態に影響を与える可能性があります。

こうしたリスクを回避・低減するために「与信管理規定」に基づき、取引先毎に慎重に与信限度額を設定した上で定期的な限度額の見直しを行うとともに取引信用保険を付保することで、売掛債権等の保全を図っています。

なお、本項には将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

#### 4【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概況ならびに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

##### (1) 経営成績

###### [ 内外環境 ]

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な企業収益を下支えに、設備投資意欲や雇用・所得環境の改善傾向や、インバウンド需要も過去最高水準を記録し、1年を通して景気回復基調はあったものの、未だ不安定な国際情勢による原材料価格の高止まりやこれらに端を発した物価上昇に加え、年度終わりからは米国新政権の経済・関税政策により金融市場が乱高下するなど不確実性が急速に高まり、期初の景気回復基調の勢いが次第に減速し下振れの兆候が見られ始めています。

###### [ 主要施策 ]

当社グループは、2023年度を起点とする3か年の中期経営戦略『SANYEI 2025』を推進しており、重点施策として掲げている「グループ事業構造、事業ポートフォリオの見直し」「スピード感のある新規取組みの促進」「ワークライフバランス」「ガバナンスの強化」をより一層推し進め、最終年度の2025年度までに売上高500億円、経常利益20億円（経常利益率4%）という数値目標を掲げております。

当連結会計年度はその2年目となり、以下に掲げる3つの成長ドライバーを中心に、既存事業のみならず、M&Aの検討も含めて、積極的に経営資源を投入し、早期の事業拡大・収益強化に注力してまいりました。その結果、売上高につきましては、前期比増収となったものの、目標水準に達する程の事業拡大には至りませんでした。利益面においては、特に「グループ事業構造、事業ポートフォリオの見直し」での各種施策の実施・断行によりコスト縮減が図れ、経常利益20億円という数値目標を前倒して達成することができました。

###### < 『SANYEI 2025』での成長ドライバー >

海外取引の拡大

EC事業の強化

「健康と環境」に則ったサステナブルビジネスの追求

###### [ 連結業績 ]

当連結会計年度の売上高は、前期比8.6%増加の398億6千1百万円となりました。旺盛なインバウンド需要や外出需要が期を通して継続し、外出・トラベル関連商材が好調に推移した服飾雑貨事業セグメントに加え、家具家庭用品事業セグメントにおいても売り上げを堅調に積み上げました。

利益面につきましては、売上高の増加を主因に、売上総利益は前期比5億4千9百万円増加の102億9千6百万円となりました。販管費は、直営店舗数削減による店舗経費の縮減に加えて、2024年2月に解散した連結子会社の費用が純減したこともあり、前期比3億8千3百万円減少しました。その結果、営業利益は前期比9億3千3百万円増加の20億9千6百万円となり、経常利益においても、営業増益を主因に、前期比9億円増加の21億4千9百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、ブランド販売子会社に係る減損損失等の特別損失を4億9千8百万円計上したものの、前期比4億3千6百万円増加の9億7千4百万円となりました。

[ セグメント別業績 ]  
( 家具家庭用品事業 )

当報告セグメントの売上高は、前期比7.4%増加の185億8千4百万円となりました。OEM事業では、欧州や中国の景気低迷の影響が続く中でも、営業活動の強化により受注状況が改善したことなどから、前期比増加となりました。ブランド事業においては、「MINT（ミント）」などの家具・インテリアのネットショップの売り上げは新商品が好調に推移したことを主因に増加となりましたが、昨年2月に解散したブランド販売子会社の売り上げが純減したことから、ブランド事業全体では前期比減少となりました。

セグメント利益については、売上総利益率の改善や販管費の減少により、前期比5億5千万円増加の12億4百万円となりました。

( 服飾雑貨事業 )

当報告セグメントの売上高は、前期比15.6%増加の162億3千6百万円となりました。旺盛なインバウンド需要や外出需要を背景に、セグメント全体で外出・旅行関連商材の売り上げを押し上げました。ブランド事業では、環境関連商材を取り扱う「OUR EARTH PROJECT」などのサステナブルビジネスにおいて、オリジナルブランド「uF」の発売や無水染色技術「e.dye」を含めた生地ビジネスで売り上げを順調に積み上げています。一方、2024年9月末に「BIRKENSTOCK」専門店事業を終了し、国内外のフットウェアの取扱いを中心としたセレクトショップの運営に専科した(株)ベネクシーは、快適歩行生活を促進する米国発のプレミアムハンズフリーシューズ「Orthofeet」を市場投入するなど、全社的な事業再編を加速させているものの、直営店舗削減の影響もあり、前期比で減少となりました。

セグメント利益については、売上高の増加に加え、店舗経費の縮減や在庫適正化など採算性向上が進み、前期比5億8千2百万円増加の19億6千6百万円となりました。

( 家電事業 )

当報告セグメントの売上高は、前期比13.2%減少の31億9千9百万円となりました。人口減少やIT化の影響から国内家電市場が縮小傾向にある中、OEM事業では、新製品の量産遅延等の影響もあり、前期比減少となりました。ブランド事業においては、「mod's hair」のドライヤーなどの理美容家電が国内向けで伸び悩み、「Vitantonio」の調理家電についても、特に海外販売が減少した影響で、前期比減少となりました。

セグメント利益については、売上高の減少や中国工場の構造改革費用を一部計上したことから、前期比2億3千9百万円減少し、4億6千万円の損失となりました。

生産、受注及び販売の実績は、次のとおりであります。

生産実績

当連結会計年度におけるセグメントごとの生産実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	
	生産実績（千円）	前期比（％）
家具家庭用品事業	769,069	68.4
家電事業	614,909	22.0
合計	1,383,978	11.2

## 受注実績

当連結会計年度におけるセグメントごとの受注状況は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日			
	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
家具家庭用品事業	17,750,632	9.7	2,743,783	23.3
服飾雑貨事業	15,831,747	2.4	3,111,658	11.5
家電事業	3,548,735	10.5	668,417	109.1
報告セグメント計	37,131,115	6.5	6,523,859	12.0
その他	1,938,943	21.4	306,789	46.8
合計	39,070,058	7.2	6,830,649	10.4

(注) 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

## 販売実績

当連結会計年度におけるセグメントごとの販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	
	販売高(千円)	前期比(%)
家具家庭用品事業	18,584,274	7.4
服飾雑貨事業	16,236,446	15.6
家電事業	3,199,928	13.2
報告セグメント計	38,020,649	8.6
その他	1,841,074	10.7
合計	39,861,723	8.6

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日		当連結会計年度 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)良品計画	19,109,768	52.1	22,608,709	56.7

(注) 上記販売額には、(株)良品計画および同社の子会社への売上高を記載しております。

## 次期連結会計年度の見通し

わが国の今後の経済見通しは、[内外環境]にも記載したとおり様々なリスク要因が前期より続いており、特に米国の通商政策の行方が先行きに対する一層の不透明感を引き起こしています。

こうした状況下、中期経営戦略の目標である経常利益20億円を1年前倒しで達成した次年度である2026年3月期は、中長期目標達成に向けた足場固めの年とします。

現時点における2026年3月期の業績予想は減益の見込みとなりますが、事業ポートフォリオの見直しを不断に行い、まずはこの1年で家電事業の構造改革を完遂させること、また投資面では、4月に設立した新規チャネル推進事業部によるEC事業のさらなる拡大、昨年取り扱いを開始した海外の新鋭ブランドの拡販、新規海外ブランド開発、M&Aの推進、といった新たな収益基盤づくりへの投資を積極的に行います。

その結果、次期の連結業績としては売上高400億円（前期比0.3%増加）、営業利益13億円（前期比7億9千6百万円減少）、経常利益13億円（前期比8億4千9百万円減少）、親会社株主に帰属する当期純利益6億円（3億7千4百万円減少）となる見込みです。

なお通期の業績見通しの前提となる為替レートは1米ドル153.00円としております。

### （業績予想に関する留意事項）

本資料における業績予想および将来の予測等に関する記述は、当連結会計年度末現在で入手した情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。

従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

## （2）財政状態

### 流動資産

前連結会計年度末が休日だった影響から「売掛金」が減少した一方、「現金及び預金」が増加したことにより、当連結会計年度末の流動資産は前連結会計年度末と比べて13億8千4百万円増加の172億4百万円となりました。

### 固定資産

「有形固定資産」「無形固定資産」は減少しましたが、保有株式の時価評価が上昇したことから「投資有価証券」が増加となり、当連結会計年度末の固定資産は前連結会計年度末と比べて10億9千5百万円増加の65億3百万円となりました。

### 流動負債

当連結会計年度末の流動負債は前連結会計年度末と比べて4億3百万円減少の81億8百万円となりました。これは主に「1年内償還予定の社債」「1年内返済予定の長期借入金」を期日にて償還・返済した一方、短期借入金で再調達したことによるものです。

### 固定負債

当連結会計年度末の固定負債は前連結会計年度末と比べて9億4千9百万円増加の21億6千9百万円となりました。これは主に「長期借入金」のリファイナンスを4億5千万円実行したことや投資有価証券時価評価に係る繰延税金負債の増加によるものです。

### 純資産

当連結会計年度末の純資産は前連結会計年度末と比べて19億3千4百万円増加の134億2千9百万円となりました。これは主に、「利益剰余金」「その他有価証券評価差額金」がそれぞれ6億9千8百万円、9億5百万円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は56.4%、1株当たり純資産は1,411円75銭となりました。

(3) キャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて32億7千9百万円増加の77億2千1百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、37億7千5百万円(前期は5億2千9百万円のキャッシュイン)となりました。税金等調整前当期純利益の計上（16億5千万円）および前連結会計年度末が休日（当連結会計年度末は平日）だった影響で売上債権が23億1千5百万円減少したことが主な要因となります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、8千2百万円(前期は1億1千8百万円のキャッシュアウト)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出（1億5千3百万円）によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、6億8千9百万円(前期は6億7千6百万円のキャッシュアウト)となりました。これは主に、社債の償還（19億5千万円）と長期借入金の返済（11億5千万円）があったものの、短期借入金にて再調達をしていることによるものです。

（参考）キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
自己資本比率（％）	46.7	48.1	51.3	53.7	56.4
時価ベースの自己資本比率（％）	21.1	18.7	19.7	29.7	38.0
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年）	9.3	8.0	5.0	8.5	1.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	22.4	19.0	26.2	17.8	155.5

（注）1 各項目における算出式は、以下のとおりであります。

自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー / 利払い

2 いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

3 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

4 キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

5 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

6 利払いは、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。



## 資金需要

当社グループの主要な資金需要は、棚卸資産の購入のほか、人件費、販売費及び一般管理費等の費用ならびに当社グループの設備の新設および改修等に係る投資となります。また、今後、当社グループの新たな収益源となり、企業価値向上に資するとの判断から、M&Aを含む新規事業への投資も資金需要の対象となります。

## 財務政策

資金需要の財源といたしましては、営業活動によるキャッシュ・フローおよび自己資金のほか、主要取引銀行から供与された円資金借入枠に基づく借入金となります。なお、当社および国内関係会社との間でCMS（キャッシュ・マネジメント・サービス）を導入しており、これにより、各社における余剰資金を当社へ集中し一元管理することで、資金効率の向上に努めています。また、「流動性の確保」「金利上昇リスクのヘッジ」等を目的に社債の発行および長期借入金の実行もしております。

一方、当社では、為替相場変動リスクのヘッジ方法の一環として、国内OEM取引先との間で商品代金等の決済を米ドル建てで行う契約を締結しています。このため、短期のつなぎ資金として米ドル資金が必要となりますが、その調達源として、当社では、主要取引銀行との間で中長期多通貨コミットメントラインを締結しております。これにより、今後、本邦において米ドル資金調達リスクが想定外に顕在化した場合でも、米ドル資金の流動性を確保することができます。

## (4)重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たり、以下の重要な会計方針が、当社の連結財務諸表の作成において使用される当社の重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすものと考えております。

### 貸倒引当金

当社グループは、顧客の支払不能時に発生する損失として過去の貸倒実績率により、貸倒引当金を見積り計上しております。顧客の財政状態が悪化し、その支払能力が低下した場合、追加引当が必要になる可能性があります。

また、当社においては子会社への貸付金等債権があり、子会社の支払能力について每期検討をしております。支払能力が低いと判断した場合には追加引当が必要な可能性があります。

### 投資の減損

当社グループは、特定の顧客および金融機関に対する株式を所有しております。これらの株式には価格変動性が高い公開会社の株式と株価の決定が困難である非公開会社の株式が含まれます。当社グループは投資価値の下落が一時的ではないと判断した場合、一定の基準に基づいて投資の減損処理をしております。将来の市況悪化または投資先の業績不振により現在の帳簿価額に反映されていない損失または帳簿価額の回収不能が発生した場合は、評価損の計上が必要になる可能性があります。

また、当社においても子会社への投資について、1株当たり純資産額と取得価額とを比較して1株当たり純資産が取得価額の50%以下となる場合は減損処理の要否を検討し回収不能と判定した場合は評価損の計上が必要になる可能性があります。

### 繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産を計上する場合に将来の課税所得を合理的な予想に基づき回収可能性を検討しておりますが、繰延税金資産の一部を将来回収できないと判断した場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産の一部を費用として計上する可能性があります。

### 固定資産の減損損失について

当社グループは、経営環境の変化や収益性の低下等により、事業等に供する土地、建物や小売店内装等の投資額の回収が見込めなくなった場合には、固定資産の減損損失の追加計上が必要になる可能性があります。

当該見積りのうち、重要なものについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」および「第5 経理の状況 2 財務諸表等(1)財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載のとおりです。

### 棚卸資産の評価について

当社グループが取り扱う商品は特性上、陳腐化などは発生しにくいものと見込んでいるものの、顧客需要の減少などによる過剰在庫の発生に備え、一定のルールで過剰割合を算出し、一定の割合で簿価切り下げを行っておりますが、見込みを超える経済環境の変化等が発生した場合は、評価損の追加計上が必要になる可能性があります。

当該見積りのうち、重要なものについては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載のとおりです。

5 【重要な契約等】

特記事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資額は164百万円で、この主たるものは、店舗設備、金型投資および情報システム投資であります。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループ（当社および連結子会社）における主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2025年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（千円）						従業員数 (名)
			建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社・東京支社 (東京都台東区)	家具家庭用品 事業、服飾雑 貨事業、家電 事業、その他	事務所	582,521	2,483	189,083 (331.45)	-	9,407	783,496	105 [43]
行田倉庫 (埼玉県行田市)	家具家庭用品 事業、服飾雑 貨事業	倉庫	18,332	0	119,000 (3,764.02)	-	134	137,466	- [ - ]
福岡事業所 (福岡県福岡市)	家具家庭用品 事業	事務所 (注) 2	0	-	-	-	0	0	3 [18]

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、主に工具、器具及び備品であります。  
2 建物の一部を賃借しております。年間賃借料は、7,399千円であります。  
3 [ ] 内は外数で平均臨時従業員数を記載しております。

##### (2) 国内子会社

2025年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の内容	帳簿価額（千円）						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
㈱ベピカ	本社、松 戸店他6 店（千葉県 市川市 他）	その他	事務所店舗 (注) 2	86,967	499	250,248 (3,715.70)	-	19,380	357,095	61 [22]

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、主に工具、器具及び備品であります。  
2 建物の一部を賃借しております。年間賃借料は、47,650千円であります。  
3 [ ] 内は外数で平均臨時従業員数を記載しております。

(3)海外子会社

2025年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメン トの名称	設備の内容	帳簿価額（千円）						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
SANYEI CORPORATION (MALAYSIA) SDN. BHD.	マレーシ ア クア ラルン プール	家具家庭 用品事業	事務所工場 (注) 2	1,953	80,301	-	-	6,923	89,178	77 [ - ]

- (注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、主に工具、器具及び備品であります。
- 2 建物の一部を賃借しております。年間賃借料は、33,479千円であります。
- 3 [ ] 内は外数で平均臨時従業員数を記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,200,000
計	35,200,000

(注) 2024年8月30日開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行うことを決議しております。これにより、当該株式分割の効力発生日である2024年10月1日に、発行可能株式総数は26,400,000株増加し、35,200,000株となっております。

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2025年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2025年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,211,784	10,211,784	東京証券取引所 スタンダード市場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数 100株
計	10,211,784	10,211,784	-	-

(注) 1 「提出日現在発行数」欄には、2025年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使(旧商法に基づき発行された転換社債の転換を含む。)により発行された株式数は含まれておりません。

2 2024年8月30日開催の取締役会の決議により、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき4株の割合をもって株式分割を行っています。これにより、発行済株式総数は7,658,838株増加し、10,211,784株となっております。

( 2 ) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

旧商法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

決議年月日	2017年6月29日 取締役会決議
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役11名、執行役員1名および参与1名
新株予約権の数(個)	2 [2]
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 1,600 [1,600] (注1、2)
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1
新株予約権の行使期間	自 2017年8月2日 至 2047年8月1日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 1 資本組入額 1
新株予約権の行使の条件	・新株予約権の割当を受けた者は、取締役は当社の取締役の地位を喪失した日の翌日から、執行役員および参与は当社の従業員としての身分を失った日(退職日)の翌日から、それぞれ10日を経過する日までの間に限り、新株予約権を行使することができる。 ・新株予約権の全部を一括して行使しなければならない。
新株予約権の譲渡に関する事項	取締役会の承認を必要とする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

当事業年度の末日(2025年3月31日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2025年5月31日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[ ]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

- (注) 1 当社が普通株式の分割または併合を行う場合、次の算式により新株予約権の目的となる株式の数を調整するものとする。ただし、かかる調整は、新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数についてのみ行われ、調整の結果生じる1株未満の端数については、これを切り捨てるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割または併合の比率

また、当社が他社と吸収合併若しくは新設合併を行い新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割若しくは吸収分割を行う場合、当社は目的たる株式数の調整を行うものとする。

- 2 2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行った。株式分割に伴い、新株予約権の目的となる株式数は新株予約権1個につき800株とする。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

( 4 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千 円)	資本準備金残 高(千円)
2024年10月1日	7,658,838	10,211,784	-	1,000,914	-	645,678

(注) 2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割し、発行済株式総数が7,658,838株増加しております。

( 5 ) 【所有者別状況】

2025年3月31日現在

区分	株式の状況（１単元の株式数100株）							単元未満 株式の状況 （株）	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数 （人）	-	8	15	73	13	12	3,138	3,259	-
所有株式数 （単元）	-	11,411	3,665	14,521	757	166	71,433	101,953	16,484
所有株式数 の割合（％）	-	11.19	3.60	14.24	0.74	0.16	70.07	100.00	-

(注) 自己株式735,140株は、「個人その他」に7,351単元および「単元未満株式の状況」に40株を含めて記載しております。

( 6 ) 【大株主の状況】

2025年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
三栄コーポレーション取引先持株会	東京都台東区寿4-1-2	621	6.55
(株)三菱ＵＦＪ銀行	東京都千代田区丸の内1-4-5	456	4.82
東銀リース(株)	東京都中央区新川2-27-1	446	4.71
ＳＭＢＣ日興証券(株)	東京都千代田区丸の内3-3-1	300	3.17
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	252	2.66
秋元 利規	東京都小平市	240	2.53
三栄コーポレーション・グループ従業員持株会	東京都台東区寿4-1-2	235	2.48
水谷 裕之	千葉県船橋市	221	2.34
小林 敬幸	東京都新宿区	203	2.14
綜通(株)	東京都中央区八丁堀2-20-8	198	2.09
計	-	3,175	33.51

(注) 上記のほか、当社は自己株式を735,140株所有しており、発行済株式総数に対する割合は7.2%であります。

## ( 7 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2025年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 735,100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,460,200	94,602	同上
単元未満株式	普通株式 16,484	-	同上
発行済株式総数	10,211,784	-	-
総株主の議決権	-	94,602	-

(注) 1 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が40株含まれております。

2 2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の株式分割を行っており、上記株式数については、当該株式分割後の株式数を記載しております。

## 【自己株式等】

2025年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)三栄コーポレーション	東京都台東区 寿4-1-2	735,100	-	735,100	7.2
計	-	735,100	-	735,100	7.2

(注) 2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っており、上記株式数については、当該株式分割後の株式数を記載しております。



## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### （１）【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### （２）【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### （３）【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数（株）	価額の総額（千円）
当事業年度における取得自己株式	2,504	654
当期間における取得自己株式	-	-

- （注）１ 当期間における取得自己株式には、2025年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡しによる株式は含まれておりません。
- ２ 2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行ったことにより、当事業年度における取得自己株式数は、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

### （４）【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数（株）	処分価額の総額（千円）	株式数（株）	処分価額の総額（千円）
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
そ の 他 （新株予約権の権利行使）	104,000	55,198	-	-
そ の 他 （譲渡制限付株式の交付）	38,800	20,600	-	-
保有自己株式数	735,140	-	735,140	-

- （注）１ 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りおよび売渡しによる株式は含まれておりません。
- ２ 2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行ったことにより、当事業年度における取得自己株式数は、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

### 3【配当政策】

#### ・利益配分に関する基本方針

当社グループは、縁に随って出会った人々がお互いに助け合うことを大切にする『随縁の思想』を企業理念としております。当社は、この企業理念の下、当社との縁を紡がれた株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要課題の一つと位置付けております。

利益配分に関しては、将来の事業展開や不測の事態に備える内部留保による経営基盤の維持強化だけでなく、持続的成長と中長期的な企業価値の向上の実現に資するよう、人的資本への投資を含めた適切な投資の実施などを踏まえ、当社グループの財政状態、今後の業績動向や資金需要などを総合的に判断し決定します。

#### ・配当決定に関する基本方針

株主の皆様に対する配当については、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としており、年間配当金は、親会社株主に帰属する当期純利益に対する配当性向30%～50%を目処に実施します。なお、定款の定めにより株主総会から授権された取締役会において審議の上、決定します。

2025年3月期の期末配当につきましては、2025年5月22日に発表しましたとおり、1株当たり普通配当21円となりました。なお、当社は2024年10月1日付けで普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っており、当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合、1株当たり年間配当金は31円（中間10円、期末21円）となります。

次期、2026年3月期の配当につきましては、中間配当は1株当たり15円50銭、期末配当は同15円50銭とし、年間配当は1株当たり31円00銭を予定しております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。なお、1株当たり配当額につきましては、中間配当金は株式分割前の、期末配当金は株式分割後の金額を記載しております。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2024年10月31日 取締役会	94	40
2025年5月22日 取締役会	199	21

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、企業理念「随縁の思想」の下、真に優れた生活用品を提供すると共に、「健康と環境」をテーマに健やかで潤いのある生活を創造することを経営ビジョンとしています。

当社グループにとって、コーポレート・ガバナンスとは、経営ビジョンの実現とコンプライアンス経営を通じて、持続的な成長と中長期的な企業価値向上を目指すための基盤となるものと考えています。

そのために、迅速・果敢な意思決定が可能となる体制作りと同時に、意思決定の透明性・公正性の確保を目的とした経営監視機能の強化を図るなど、攻めと守りのガバナンス体制の両立を目指します。

そして、働く全ての人が、高い倫理観のもと誠実な企業活動を行うよう「行動規範」と、「三栄コーポレーショングループ企業行動指針」を定め、その周知徹底を図っています。

#### 企業統治の体制

##### 企業統治の体制の概要

当社は、業務執行の意思決定機関として取締役会を設置しています。取締役会は、取締役の職務の執行を監督します。さらに、複数の社外取締役を含む「監査等委員である取締役」が業務執行取締役を監督することを通じて、取締役会の監督機能の充実を図っております。また、全般的な経営執行方針に係る社長の協議機関として、エグゼクティブコミッティ（ＥＣ）を設けております。ＥＣに付議された事項のうち、重要な事項については取締役会に報告され、特に重要な場合は、取締役会規定に則って取締役会で決定しますが、慎重な議論が必要な場合は新たに設けた審議事項によって複数回の取締役会での議論を経て決めることができます。監査機能を担うのが監査等委員会です。監査等委員は、取締役会およびＥＣなどの経営執行における重要な会議に出席することを通じて、重要な書類を閲覧し、取締役の職務の執行を監査しております。内部監査組織としては、社長直属の機関である内部監査室を設置しています。指名・報酬委員会（任意）は、取締役会の諮問機関として、取締役の選任・解任に関する事項と、取締役の報酬等に関する事項を審議し答申しております。

##### 企業統治の体制を採用する理由

ガバナンス体制の強化を求める昨今の状況を背景に、2015年5月に施行された会社法の一部を改正する法律案により、監査等委員会設置会社という新たな機関設計が創設されました。当社といたしましては、当社および当社を取り巻く環境に鑑みれば、新しい機関構成として、社外監査役に代わって、複数の社外取締役を置くことで、取締役会の監督機能を強化することができる監査等委員会設置会社へ移行することが最も適切であると判断したものであります。

##### 会社の機関の内容(提出日現在)

###### ・取締役会

当社の業種・業態、規模等に鑑み、社外取締役2名を含む6名の体制をとっております。

###### ・取締役会の体制 監査等委員でない取締役 3名

監査等委員である取締役 3名(社内1名(常勤)、社外2名)

###### ・開催頻度 毎月1回定時取締役会を開催、そのほか必要に応じて臨時取締役会を開催、もしくは書面決議を実施。 2024年度は、取締役会を14回開催しました。

###### ・主な検討事項 当社グループの経営方針、法定および定款に定める事項、経営に関する重要事項など

###### ・取締役の出席状況 全員の取締役が全ての取締役会に出席しています。

当社は2025年6月27日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として「監査等委員でない取締役4名選任の件」および「監査等委員である取締役2名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されると、当社の取締役は7名（内、社外取締役2名）となります。また、当該定時株主総会の直後に開催が予定されている取締役会の決議事項として「執行役員選任の件」が付議される予定です。これらが承認可決された場合の取締役会の構成員及び執行役員については、後記「(2) 役員の状況 役員一覧」のとおりです。また、指名・報酬委員会の委員は4名で、社内取締役2名と社外取締役2名で構成されています。

###### ・監査等委員会

3名（提出日現在）の監査等委員（うち2名は社外取締役）は、取締役会その他重要な会議へ出席することを含め監査等委員でない取締役の職務執行を監査しております。なお、監査等委員については、当社定款において員数4名以内と定めております。

- ・指名・報酬委員会（任意）  
取締役会の諮問を受けて、株主総会に提出する取締役の選任および解任に関する議案の内容、株主総会に提出する取締役の報酬等に関する議案の内容、および取締役の個人別の報酬等の内容を審議し、答申します。メンバーは4名で、取締役会の決議で選任された社内取締役2名と社外取締役2名で構成されています。  
2024年度の活動状況の概要は以下のとおりです。
  - ・開催頻度 合計3回
  - ・審議内容 監査等委員でない取締役候補の指名案  
監査等委員である取締役候補の指名案（非常勤監査等委員のみ）  
国内関係会社の新経営体制案（役員候補の指名案）  
国内関係会社役員の月額報酬・賞与案  
取締役の基礎報酬改定について  
スキル・マトリックスの更新 等
  - ・委員の出席状況 水越雅己、高橋哲也、杉田雪絵、山崎雄一郎（2024年4月開催分に全員出席）  
水越雅己、高橋哲也、杉田雪絵、山崎雄一郎（2025年2月開催分に全員出席）  
水越雅己、高橋哲也、杉田雪絵、山崎雄一郎（2025年3月開催分に全員出席）
- ・エグゼクティブコミティ（EC）  
業務上の重要案件の決定機関たる経営会議として設置しており、メンバーは会長、社長、副社長、専務、常務、社長室長、営業本部長、管理本部長、総務・人事本部長および社長より指名を受けた監査等委員でない取締役等によって構成されております。
- ・コンプライアンス委員会  
法令、定款その他社内規定および企業倫理等を遵守した行動をとるための規範や行動基準を定め、その周知徹底と遵守の推進を図るための常設委員会であり、代表取締役社長（委員長）、ECメンバー、コンプライアンス担当役員（チーフ・コンプライアンス・オフィサー／CCO）によって構成されております。
- ・リスクマネジメント委員会  
当社をとりまくリスクを適切に認識し管理することを目的としてリスクマネジメント委員会を設置しており、代表取締役社長（委員長）、ECメンバー、リスクマネジャーによって構成されております。また、あらゆるリスク事象の顕在化による危機の発生あるいは発生する恐れがある場合において、当該危機に対応した損害軽減、損害防止、応急対策、復旧・復興に必要な施策を実施するため、委員会の下部組織である危機対策本部は、代表取締役社長（対策本部長）、社長室長、営業本部長、管理本部長、総務・人事本部長、総務部長、対策本部長が指名する者によって構成されております。
- ・内部統制委員会  
当社グループの業務執行が適切かつ健全に行われるため、実効性のある内部統制システムの構築および継続的な整備・運用に係る実務面の管理を目的として内部統制委員会を設置しており、管理本部長（委員長）、営業本部長、総務・人事本部長、社長室長、財務部長、内部監査室長、また、委員長が指名する者によって構成されております。

機関ごとの構成員は以下の通りです（ は議長、委員長を指します）。

役職名	氏名	取締役会	監査等委員会	指名・報酬委員会	エグゼクティブコミティ（EC）	コンプライアンス委員会	リスクマネジメント委員会	内部統制委員会
代表取締役社長	水越 雅己							
取締役	高橋 哲也	○		○	○	○	○	
取締役	上瀧 準也	○			○	○	○	○
取締役（常勤監査等委員）	新井 三郎	○			○	○	○	○
社外取締役（監査等委員）	杉田 雪絵	○	○	○				
社外取締役（監査等委員）	山崎 雄一郎	○	○	○				
その他	-	-	-	-	他1名	他1名	他1名	他3名

・内部監査

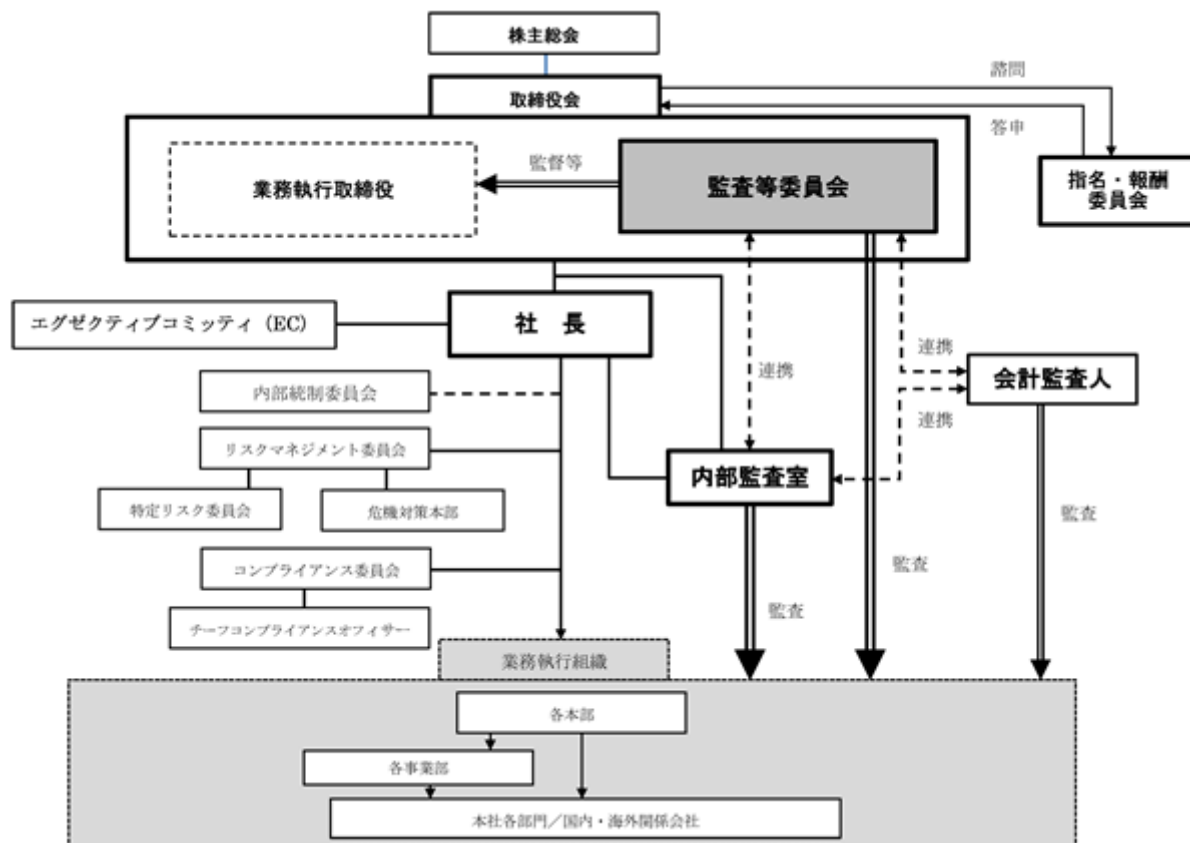
内部監査につきましては、内部統制の目的をより効果的に達成するために、内部統制の基本的要素の一つであるモニタリングの一環として、内部監査室が内部監査規定に従い内部統制の整備および運用状況を検討、評価し、必要に応じて、その改善を促す職務を担っております。

・外部監査

外部監査につきましては、太陽有限責任監査法人と監査契約を締結し、会社法監査および金融商品取引法に基づく会計監査と金融商品取引法に基づく内部統制監査を受けております。その他、法務上の適切なアドバイスを受けるために弁護士と顧問契約を締結、税務上のアドバイスを受けるために税理士と顧問契約を締結、労務関連につきましては社会保険労務士と顧問契約を締結し、必要に応じてアドバイスを受けております。

会社の機関・内部統制の関係

当社コーポレート・ガバナンス体制図は以下のとおりです。



内部統制システムに関する基本的な考え方およびその整備状況

当社は、当社およびその子会社等の業務執行が全体として適正かつ健全に行われるため、取締役会が企業統治を一層強化する観点から、代表取締役が、遵守すべき基本方針を明らかにするとともに、実効性のある内部統制システムの体制整備に必要とされる基本方針を定めています。

- ・当社および子会社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制  
当社グループは、コンプライアンス経営（法令遵守および企業倫理の確立等）を基本とし、当社の取締役および使用人、子会社の取締役および使用人(以下、「当社グループの従業者」という。)が法令、定款その他の社内規定および企業倫理等を遵守した行動をとるための規範や行動基準として「三栄コーポレーショングループ企業行動指針」を定めている。その目的を達成するためグループ全体を対象とするコンプライアンス規定を制定、同規定に基づきコンプライアンス委員会を設置するとともに、その周知徹底と遵守の推進を図っている。また、チーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）を置き、コンプライアンス体制の構築、維持向上を積極的に推進している。なお、コンプライアンスに関する知識を高め、企業倫理を尊重する意識を醸成するため、計画的にコンプライアンス研修を行っている。

当社グループの従業者は、法令・定款違反、社内規定違反、企業倫理に反する行為等が行われていること、または行われていることを知ったときは、職制またはコンプライアンスヘルプラインを通じて当社の代表取締役に報告することにより、コンプライアンス違反に対し適切な措置を講じている。なお、コンプライアンスヘルプラインの通報者については、通報に基づく一切の不利益を排除する等の通報者保護を社内規定に明記し、透明性を維持しつつ的確な対応ができる体制を維持している。

- ・取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

当社は、取締役の職務の執行に係る文書その他の情報を取締役会規定、文書管理規程その他の社内規定およびそれに関する運用管理マニュアルに従い適切に保存し、管理している。

各取締役の要求があるときは、これを閲覧に供する。

- ・損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、リスク管理を経営の重要課題と位置付け、リスクマネジメント規程を定め、同規程に基づきリスクマネジメント委員会を設置して、顕在化するリスクを適切に認識し、リスクの顕在化防止のための管理体制の維持向上を行っている。

当社の経営成績や財政状態に大きく影響を及ぼす可能性のあるリスクのうち、対応が必要なものを特定リスクとして指定し、それに対応する委員会を設置し、常時当該リスクを監視するとともに、リスク低減やリスク回避などの具体的対策を実施している。

リスク事象の顕在化による危機の発生あるいは発生する恐れがある場合においては、危機管理基本マニュアルに従って危機対策本部を設置し、危機に即応した損害軽減、応急対策等の必要な施策を実施している。なお、危機対策本部事務局は、突然急変する自然災害などの危機事象に対して迅速に対応するために常設機関として設置されている。

- ・取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、職制規定に基づき職務分掌および職務権限・責任を明確化し、取締役会規定、EXECUTIVE COMMITTEE規定、稟議規程等の意思決定ルールを整備し、適正かつ効率的に職務が執行される体制としている。

業務の運営については、将来の事業環境を踏まえた中期経営計画(戦略)および年度計画に基づき各業務ラインにおいてその目標達成に向けて具体策を立案し実行している。

当社は、迅速で効率性の高い企業経営を実現するために、業務執行機能を担う執行役員制度を採用し、意思決定・監督機能を担う監査等委員でない取締役との役割分担を明確にしている。執行役員は、要請に応じて取締役会において適宜業務報告を行うとともに、監査等委員でない取締役との経営情報および業務運用方針の共有化を図っている。

- ・当社ならびに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、内部監査室等の機関において、当社グループの企業集団に内在する諸問題および重大なリスクを伴う統制事項を取り上げ、グループ全体の利益の観点から協調して調査および監査を行い、管理本部等所管部門と連携し企業集団における情報の共有および業務執行の適正を確保することに努めている。

- ・子会社の取締役および使用人の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制  
子会社の取締役等の職務の執行に係る重要な事項については、関係会社管理規則および協議事項規程の定めに基づき、国内子会社は社長室に、海外子会社は総務・人事本部に報告あるいは協議を求める体制としている。  
監査等委員会が選定した監査等委員は、監査等委員会規定の定めにより、監査等委員会の職務を執行するため必要があるときは、子会社に対して事業の報告を求めることができる。
- ・子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
当社は、当社の内部監査室等の機関の調査および監査の結果により子会社に損失の危険が発生または予測される場合には、遅滞なく取締役会、監査等委員会および担当部門へ報告される体制としている。  
子会社は、子会社の決裁区分が定められた協議事項規程に基づき、一定以上の重要な経営事項の決定については、事前に当社の承認を得る体制としている。  
監査等委員会が選定した監査等委員は、監査等委員会規定の定めにより、監査等委員会の職務を執行するため必要があるときは、子会社の業務及び財産の状況の調査をすることができる体制としている。
- ・子会社の取締役および使用人の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
当社は、当社の職制規定に基づき、社長室が国内子会社、営業本部長が海外子会社の経営全般を管掌することを通じて、子会社の業務執行を管理・監督するとともに、適宜必要な助言指導を行う体制を確保している。  
また、各子会社の経営には、その自主性を尊重しつつも、当社が定めた関係会社管理規則や協議事項規程等の意思決定ルールの遵守を通じて、適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制としている。
- ・監査等委員がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
当社は、内部監査室に専従者および専門知識を有する兼務者を配置し、監査等委員の求めに応じて、これら使用人に監査等委員の職務を補助させている。
- ・監査等委員会の職務を補助すべき使用人の監査等委員でない取締役からの独立性に関する事項  
内部監査室の専従者の異動は、監査等委員会の事前の同意を必要とする。
- ・監査等委員会による補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査等委員会を補助すべき使用人が監査等委員会の職務を行う際は、内部監査規定に従い、監査等委員会からの指揮命令に直接服するものとする。
- ・取締役および使用人が監査等委員会に報告をするための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制  
取締役および使用人は、職務執行に関して重大な法令・定款違反もしくは不正行為の事実または当社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を知ったときは、コンプライアンス規定に基づき、遅滞なく監査等委員会に報告しなければならない。  
取締役および使用人は、当社の事業・組織に重大な影響を及ぼす決定および内部監査の実施結果を遅滞なく監査等委員会に報告しなければならない。
- ・子会社の取締役および使用人その他これらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告をするための体制  
当社は、コンプライアンス規定に基づき、子会社の取締役および使用人その他これらの者から以下に掲げる事項に関する報告を受けた者は、職制を通じて、国内子会社は社長室経由、海外子会社は総務・人事本部経由で監査等委員会に報告する体制としている。  
また、職制を通じた報告が難しい場合には、コンプライアンスヘルプラインを用いて当社の代表取締役に報告することができる体制としている。
  - 当社および当社グループに関する重要な事項
  - 当社および当社グループに損害を及ぼす恐れのある事項
  - 法令・定款等の違反事項
  - 経営状況として重要な事項
  - 内部監査の結果上記のほか、監査等委員会がその職務遂行上報告を受ける必要があると判断した事項
- ・当社グループの従業者その他これらの者から報告を受けた者が監査等委員会に報告したことを理由に不利益な取扱いを受けないことを確保するための体制  
当社は、コンプライアンス規定において、当社グループの従業者に前項に掲げた事項に係る報告をすること（通報）を義務付けると共に、報告したこと（通報）を理由として不利な取扱いを行わないことを明確に定める体制としている。

- ・監査等委員の職務の執行について生じる費用の前払いまたは償還の手続その他の職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

当社は、監査等委員が、自己の職務執行に係る費用の前払い等の請求を求めたときは、担当部門において審議の上、当該請求に係る費用あるいは債務が当該監査等委員の職務の執行に必要と認められるものについては、速やかに処理するものとする。

当社は、監査等委員の職務の執行に係る費用等を支弁するために必要な予算を毎年設けるものとする。

- ・その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社は、代表取締役が監査等委員と可能な限り会合を持つことで経営情報の共有化を深めるとともに、業務報告とは別に会社運営に関する意見の交換のほか、意思疎通を図る体制としている。

監査等委員は、取締役会のほか、重要な経営事項の決定がなされる会議に出席するとともに、業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて監査等委員でない取締役または使用人に説明を求めることができる。

監査等委員会と内部監査室および会計監査人は、相互緊密に連携を保ち、定期的に情報交換を行うなど、効率的な監査体制を確保する体制とする。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

- ・基本的な考え方

当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは毅然として対決します。

- ・整備状況

当社グループは、上記基本的な考え方を「三栄コーポレーショングループ企業行動指針」に定めており、当社グループ役職員全員に周知徹底するとともに、平素から本社総務部を主管部門として弁護士や警察、また「社団法人警察庁管内特殊暴力防止対策連合会」等の外部専門機関とも連携し、毅然とした姿勢で組織的に対応する体制を構築しております。

責任軽減規定及び責任限定契約の内容の概要

取締役として適切な人材の継続的な確保と、選任された取締役が期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第423条に基づき、取締役会の決議によって法令の定める範囲内で取締役の責任を免除することができる旨を定款に定めております。また、取締役のうち社外取締役に対しては、会社法第427条に基づき、当社との間で責任限定契約を締結することができる旨を定款に定めており、締結をしております。

補償契約の内容の概要

当社は、各取締役との間で、会社法第430条の2第1項に規定する補償契約を当社が適当と判断する内容で締結しており、同項第1号の費用および同項第2号の損失を法令の定める範囲内において当社が補償することとしております。

役員等賠償責任保険の内容の概要

当社は、保険会社との間で、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、各取締役は当該保険契約の被保険者となります。当該保険契約の被保険者の範囲は役員等であり被保険者は保険料を負担しておりません。当該保険契約の内容の概要は、被保険者が会社の役員としての業務につき行った行為に起因して損害賠償請求がなされた場合に、被保険者が被る損害（損害賠償金および争訟費用）を補償します。

取締役の定数

当社の監査等委員でない取締役は10名以内、監査等委員である取締役は4名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

これは、株主総会の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。



## ( 2 ) 【役員の状況】

## 役員一覧

1 . 2025年6月26日（有価証券報告書提出日）現在の当社の役員の状況は、以下のとおりです。

男性5名 女性1名 （役員のうち女性の比率16.7％）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 （千株）
取締役社長 (代表取締役) 兼 社長室長	水越 雅己	1957年4月18日生	1981年4月 住友商事㈱入社 2004年6月 ㈱オリエンタルダイヤモンド代表取締役社長 2004年10月 ㈱トレセンテ代表取締役社長 2014年5月 当社入社 2015年1月 当社営業本部長補佐 当社家具事業部長 2016年6月 当社執行役員 2017年6月 当社取締役 2020年6月 当社常務取締役 当社営業本部副本部長 2022年1月 当社代表取締役社長（現在） 2024年4月 当社社長室長（現在）	（注）2	125
取締役 総務・人事本部長 兼 管理本部長 兼 チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 兼 TRIACE LIMITED董事長 兼 三暉国際貿易（上海）有限公司董事長 兼 三栄貿易（深圳）有限公司董事長 兼 三栄洋行有限公司董事長 兼 台湾三栄貿易股份有限公司董事長	高橋 哲也	1962年1月9日生	1984年4月 ㈱東京銀行（現㈱三菱UFJ銀行）入行 2009年11月 ㈱三菱東京UFJ銀行（現㈱三菱UFJ銀行）台北支店長 2011年8月 同社国際コンプライアンス統括部長（特命） 2012年1月 同社国際管理部長 2012年5月 同社国際オペレーション統括部長 2015年10月 当社入社 当社関連事業本部長補佐 2016年9月 TRIACE LIMITED董事総経理 2017年4月 三暉国際貿易（上海）有限公司董事長（現在） 三栄貿易（深圳）有限公司董事長（現在） 三栄洋行有限公司董事長（現在） 2017年6月 当社執行役員 当社管理本部副本部長 2019年3月 TRIACE LIMITED董事長（現在） 兼総経理 2019年6月 当社取締役（現在） 当社管理本部長 当社チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 2021年4月 台湾三栄貿易股份有限公司董事長（現在） 2022年4月 当社総務・人事本部長（現在） 2024年6月 当社管理本部長（現在） 当社チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO)（現在）	（注）2	37

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 営業本部長 兼 家庭用品事業部長 兼 新規チャネル推進事業部長	上瀧 準也	1961年12月20日生	1986年4月 ニチメン(株)(現双日(株))入社 2009年2月 双日新潮服装有限公司(香港) 董事長兼上海代表処主席代表 2014年1月 双日インドネシア取締役繊維部長 2018年2月 当社入社 当社参与 家具事業部事業部長補佐 2019年4月 当社参与 家具事業部副事業部長 2021年2月 当社 マレーシア三栄社長 2021年12月 当社顧問 2022年1月 当社顧問 家具事業部長 2023年6月 当社取締役(現在) 当社営業本部長(現在)兼家具事業部長 2025年1月 当社家庭用品事業部長(現在) 2025年4月 当社新規チャネル推進事業部長(現在)	(注)2	31
取締役(常勤監査等委員)	新井 三郎	1965年11月24日生	1989年4月 (株)東京銀行(現(株)三菱UFJ銀行) 入行 2009年11月 (株)三菱東京UFJ銀行(現(株)三菱UFJ銀行)欧州本部欧州CIB部 兼ストラクチャードファイナンス部(ロンドン駐在)次長 2013年5月 同社ストラクチャードファイナンス部 豪州ストラクチャードファイナンス室長(シドニー駐在) 2015年7月 同社ラブアン支店長(クアラルンプール駐在) 2016年4月 同社コンプライアンス統括部 企画グループ次長・特命 2019年10月 当社入社 参与 管理本部副本部長 2020年6月 当社参与 総務・人事本部長兼総務部長 2021年6月 当社執行役員 総務・人事本部長兼総務部長 2022年4月 当社執行役員 管理本部長兼当社チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 2024年6月 当社取締役(常勤監査等委員)(現在)	(注)3	19

取締役（監査等委員）	杉田 雪絵	1965年5月19日生	1988年4月 ㈱埼玉銀行(現㈱埼玉りそな銀行)入行 2001年10月 新日本監査法人（現 EY新日本有限責任監査法人） 2005年4月 公認会計士登録 2018年10月 杉田公認会計士事務所設立同代表（現在） 2019年11月 ㈱みおぎアドバイザー（現㈱あゆむアドバイザー）代表取締役（現在） 2020年3月 中野冷機㈱社外監査役（現在） 2021年8月 ㈱NEXT EDUCATION社外取締役(監査等委員) 2023年6月 当社社外取締役（監査等委員）（現在） マクニカホールディングス㈱社外取締役（監査等委員）（現在）	(注) 4	6
取締役（監査等委員）	山崎 雄一郎	1969年3月12日生	1995年4月 弁護士登録 奥野法律事務所 2000年9月 三羽・山崎法律事務所パートナー弁護士 2004年4月 明治大学法科大学院客員助教授 (2006年特任助教授、2007年特任教授、2023年特任教授) 2007年12月 東京都杉並区建築審査会専門調査員 2008年9月 隼あすか法律事務所パートナー弁護士 2009年5月 エー・シー・エス債権管理回収㈱取締役弁護士 2012年1月 みとしろ法律事務所代表弁護士（現在） 2012年4月 最高裁判所司法研修所教官 2016年4月 東京家庭裁判所調停委員（現在） サイバー大学IT総合学部客員教授（現在） 2017年6月 (公社)日本PTA全国協議会監事 2017年10月 司法試験考査委員・司法試験予備試験考査委員 2018年4月 埼玉県所沢市いじめ問題対策委員（現在） 2019年4月 防衛医科大学学校非常勤講師 2020年10月 司法試験予備試験考査委員 2022年5月 イオンプロダクトファイナンス㈱(現㈱オリコプロダクトファイナンス)社外取締役（現在） 2023年6月 当社社外取締役（監査等委員）（現在）	(注) 4	6
計					227

- (注) 1 杉田雪絵および山崎雄一郎は、社外取締役であります。
- 2 2024年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
- 3 2024年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 4 2023年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 5 取締役（社外）杉田雪絵および山崎雄一郎は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届出しております。なお、当社との間には、特別な利害関係はありません。
- 6 当社の監査等委員会については次のとおりであります。  
委員長 新井三郎、委員 杉田雪絵、委員 山崎雄一郎  
なお、新井三郎は、常勤の監査等委員であります。常勤の監査等委員を選定している理由として、より実効性のある監査・監督体制を確保するためであります。
- 7 当社は、効率化と迅速化による経営体制の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。

２．2025年6月27日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「監査等委員でない取締役4名選任の件」及び「監査等委員である取締役2名選任の件」を上程しており、当該議案が承認可決されますと、当社の役員の状況及びその任期は、以下の通りとなる予定です。

なお、役員の役職等については、当該定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項の内容（役職等）を含めて記載しております。

男性6名　女性1名　（役員のうち女性の比率14.3％）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 （千株）
取締役社長 (代表取締役) 兼　社長室長	水越　雅己	1957年4月18日生	1981年4月　住友商事(株)入社 2004年6月　(株)オリエンタルダイヤモンド代 表取締役社長 2004年10月　(株)トレセンテ代表取締役社長 2014年5月　当社入社 2015年1月　当社営業本部長補佐 当社家具事業部長 2016年6月　当社執行役員 2017年6月　当社取締役 2020年6月　当社常務取締役 当社営業本部副本部長 2022年1月　当社代表取締役社長（現在） 2024年4月　当社社長室長（現在）	（注）2	125
常務取締役 営業本部長 兼　家庭用品事業部長	上瀧　準也	1961年12月20日生	1986年4月　ニチメン(株)（現双日(株)）入社 2009年2月　双日新潮服装有限公司(香港) 董 事長兼上海代表処主席代表 2014年1月　双日インドネシア取締役繊維部 長 2018年2月　当社入社 当社参与　家具事業部事業部長補 佐 2019年4月　当社参与　家具事業部副事業部長 2021年2月　当社　マレーシア三栄社長 2021年12月　当社顧問 2022年1月　当社顧問　家具事業部長 2023年6月　当社取締役 当社営業本部長（現在）兼家具 事業部長 2025年1月　当社家庭用品事業部長（現在） 2025年4月　当社新規チャネル推進事業部長 2025年6月　当社常務取締役（現在）	（注）2	31

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 総務・人事本部長 兼 チーフ・ファイナンシャル・オフィサー(CFO) 兼 TRIACE LIMITED董事長 兼 三暉国際貿易(上海)有限公司董事長 兼 三栄貿易(深圳)有限公司董事長 兼 三栄洋行有限公司董事長 兼 台湾三栄貿易股份有限公司董事長	高橋 哲也	1962年1月9日生	1984年4月 (株)東京銀行(現(株)三菱UFJ銀行)入行 2009年11月 (株)三菱東京UFJ銀行(現(株)三菱UFJ銀行)台北支店長 2011年8月 同社国際コンプライアンス統括部長(特命) 2012年1月 同社国際管理部長 2012年5月 同社国際オペレーション統括部長 2015年10月 当社入社 当社関連事業本部長補佐 2016年9月 TRIACE LIMITED董事総経理 2017年4月 三暉国際貿易(上海)有限公司董事長(現在) 三栄貿易(深圳)有限公司董事長(現在) 三栄洋行有限公司董事長(現在) 2017年6月 当社執行役員 当社管理本部副本部長 2019年3月 TRIACE LIMITED董事長(現在)兼総経理 2019年6月 当社取締役(現在) 当社管理本部長 当社チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 2021年4月 台湾三栄貿易股份有限公司董事長(現在) 2022年4月 当社総務・人事本部長(現在) 2024年6月 当社管理本部長 当社チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 2025年6月 当社チーフ・ファイナンシャル・オフィサー(CFO)(現在)	(注)2	37

(注)2

37

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 管理本部長 兼 チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 兼 財務部長	岡崎 克則	1964年12月4日生	1987年4月 (株)エルビス入社 1992年4月 ジャンルイシェレルジャパン(株) 出向 2003年4月 ビレロイ & ボッホテーブルウェア アジヤパン(株)入社 2010年1月 同社取締役財務部長 2016年4月 同社代表取締役財務部長 2018年3月 当社入社 2020年4月 当社財務部副部長 2023年6月 当社財務部長(現在) 2024年6月 当社執行役員 管理本部副本部長兼財務部長 2025年6月 当社取締役(現在) 当社管理本部長(現在) 当社チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO)(現在)	(注)2	1
取締役(常勤監査等委員)	新井 三郎	1965年11月24日生	1989年4月 (株)東京銀行(現(株)三菱UFJ銀行) 入行 2009年11月 (株)三菱東京UFJ銀行(現(株)三菱UFJ銀行)欧州本部欧州CIB部 兼ストラクチャードファイナンス部(ロンドン駐在)次長 2013年5月 同社ストラクチャードファイナンス部 豪州ストラクチャード ファイナンス室長(シドニー駐在) 2015年7月 同社ラブアン支店長(クアラルンプール駐在) 2016年4月 同社コンプライアンス統括部 企画グループ次長・特命 2019年10月 当社入社 参与 管理本部副本部長 2020年6月 当社参与 総務・人事本部長兼総務部長 2021年6月 当社執行役員 総務・人事本部長兼総務部長 2022年4月 当社執行役員 管理本部長兼当社 チーフ・コンプライアンス・オフィサー(CCO) 2024年6月 当社取締役(常勤監査等委員)(現在)	(注)3	19

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役（監査等委員）	杉田 雪絵	1965年5月19日生	1988年4月 ㈱埼玉銀行（現㈱埼玉りそな銀行）入行 2001年10月 新日本監査法人（現 EY新日本有限責任監査法人） 2005年4月 公認会計士登録 2018年10月 杉田公認会計士事務所設立同代表（現在） 2019年11月 ㈱みおぎアドバイザー（現㈱あゆむアドバイザー）代表取締役（現在） 2020年3月 中野冷機㈱社外監査役（現在） 2021年8月 ㈱NEXT EDUCATION社外取締役（監査等委員） 2023年6月 当社社外取締役（監査等委員）（現在） マクニカホールディングス㈱社外取締役（監査等委員）（現在）	（注）4	6
取締役（監査等委員）	山崎 雄一郎	1969年3月12日生	1995年4月 弁護士登録 奥野法律事務所 2000年9月 三羽・山崎法律事務所パートナー弁護士 2004年4月 明治大学法科大学院客員助教授 （2006年特任助教授、2007年特任教授、2023年特任教授） 2007年12月 東京都杉並区建築審査会専門調査員 2008年9月 隼あすか法律事務所パートナー弁護士 2009年5月 エー・シー・エス債権管理回収㈱取締役弁護士 2012年1月 みとしろ法律事務所代表弁護士（現在） 2012年4月 最高裁判所司法研修所教官 2016年4月 東京家庭裁判所調停委員（現在） サイバー大学IT総合学部客員教授（現在） （公社）日本PTA全国協議会監事 2017年6月 司法試験考查委員・司法試験予備試験考查委員 2017年10月 埼玉県所沢市いじめ問題対策委員（現在） 2018年4月 防衛医科大学校非常勤講師 2019年4月 司法試験予備試験考查委員 2020年10月 イオンプロダクトファイナンス㈱（現㈱オリコプロダクトファイナンス）社外取締役（現在） 2022年5月 当社社外取締役（監査等委員）（現在） 2023年6月	（注）4	6
計					227

（注）1 杉田雪絵および山崎雄一郎は、社外取締役であります。

2 2025年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

3 2024年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

4 2025年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

5 取締役（社外）杉田雪絵および山崎雄一郎は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届出しております。なお、当社との間には、特別な利害関係はありません。

- 6 当社の監査等委員会については次のとおりであります。  
委員長 新井三郎、委員 杉田雪絵、委員 山崎雄一郎  
なお、新井三郎は、常勤の監査等委員であります。常勤の監査等委員を選定している理由として、より実効性のある監査・監督体制を確保するためであります。
- 7 当社は、効率化と迅速化による経営体制の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。

a. 2025年6月26日（有価証券報告書提出日）現在の当社の執行役員の構成は、以下のとおりです。

役職名	氏名
総務・人事本部副本部長兼人事部長兼三栄興産株式会社代表取締役社長	小平 敏之
(株)ベネクシー代表取締役社長	海野 祥之
営業本部長補佐兼服飾雑貨事業部長兼服飾雑貨第3部長	奥山 正
管理本部副本部長兼財務部長	岡崎 克則

b. 2025年6月27日開催予定の定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会で「執行役員選任の件」を上程しており、当該議案が承認可決されますと、当社の執行役員の構成は、以下の通りとなる予定です。

役職名	氏名
総務・人事本部副本部長兼人事部長兼三栄興産株式会社代表取締役社長	小平 敏之
(株)ベネクシー代表取締役社長	海野 祥之
営業本部長補佐兼服飾雑貨事業部長兼服飾雑貨第3部長	奥山 正
営業本部長補佐兼家電事業部長兼家電事業部家電第1部長兼三發電器製造廠有限公司董事長兼三發電器製品（東莞）有限公司董事長	吉岡 幹宏
営業本部長補佐兼家具事業部長兼マレーシア三栄コーポレーション代表取締役社長	法貴 健造
営業本部長補佐兼新規チャネル推進事業部長	西村 光一

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名であります。

杉田雪絵氏は、長年に亘り、公認会計士として財務会計アドバイザリー業務や監査業務に加えて、企業内研修や外部セミナーの講師を務めるなど、財務に関する多面的で豊富な経験および知見を有しておられます。また、社外役員としての経験も豊富であり、業務執行に対する中立的・客観的な視点から取締役の職務執行に対する監督と幅広い経営的視点から経営全般に関する前向きな助言等、適切な役割を果たして頂くことを期待することから、監査等委員である社外取締役候補者と致しました。なお、会社法が定める社外取締役の要件および東京証券取引所が定める独立性判断基準に加えて、当社が独自に定める独立性基準を全て充たしていることから、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断し、独立役員としての役割も担って頂きます。

山崎雄一郎氏は、長年に亘る弁護士および大学教授としての経歴を通じて、企業法務や債権管理に加えてコンプライアンスに関する高度な専門知識と豊富な法曹経験および知見を有しておられます。また、社外役員としての経験も豊富であり、業務執行に対する中立的・客観的な視点から取締役の職務執行に対する監督とコンプライアンスの観点から経営全般に関する助言等、適切な役割を果たして頂くことを期待することから、監査等委員である社外取締役候補者と致しました。なお、会社法が定める社外取締役の要件および東京証券取引所が定める独立性判断基準に加えて、当社が独自に定める独立性基準を全て充たしていることから、一般株主と利益相反が生じる恐れはないと判断し、独立役員としての役割も担って頂きます。



社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査等委員会監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

会計監査は、太陽有限責任監査法人に委嘱しています。監査等委員会は、会計監査人から監査計画の説明を受け、必要に応じて会計監査人の往査に立会い、四半期レビュー結果や通期監査結果の報告を受けるとともに、KAMの記載内容について会計監査人と協議します。経営上あるいは監査上の重要事項が発生した場合は、必要な対応策について会計監査人と協議する等、会計監査人との連携を図り監査の実効性向上に努めます。また、当社は内部監査部門として、代表取締役社長の直属機関である内部監査室を設置し、内部統制規定および内部監査規定に従って、当社および関係会社の内部監査を実施しています。内部監査室は、監査結果を社長に報告するほか、監査等委員会と情報共有しています。なお、年度の内部監査結果は、DUAL REPORT LINE確保の観点から、取締役会にも報告しています。監査等委員会は、内部監査室から監査計画および監査結果の報告を受けるほか、月次の定期連絡会の機会に、あるいは必要に応じて、内部監査室と情報共有・意見交換を行うことで、相互の連携強化を図っています。なお、内部監査室は、内部監査規定に基づき、監査等委員から、監査等委員の職務の補助の依頼を受けたときは、内部監査室の業務の遂行に支障がない限り、監査等委員の職務の補助を行うこととなっています。

## ( 3 ) 【監査の状況】

## 1. 監査等委員会監査の状況

## 1-1. 監査等委員会監査の組織、人員および手続

## 組織・人員

- ・当社は監査等委員会設置会社であり、監査等委員である取締役は定款により4名以内と定めています。現状、監査等委員会は常勤監査等委員1名と独立社外取締役である非常勤の監査等委員2名で構成されています。
- ・当社では、取締役の選任・指名の方針として、監査等委員である取締役は、経営の監視・監督機能を担う役割を果たすとともに、会社の企業活動に助言を行うことができる人物と定めており、また、社外取締役については、法律・財務・会計・会社経営などの専門的知識や経験があり、高い人格・識見を有する人物から2名以上選ぶこととしています。
- ・監査等委員会の構成としては、社内・社外を問わず、財務・会計に関する十分な知見を有する者を1名以上選任することを基本としています。

## 監査の手続き及び役割分担

- ・監査等委員会は、取締役の職務執行の監査を担う機関ですが、具体的な監査の手続き及び役割分担については、期初に策定する監査方針・監査計画・役割分担に基づき、常勤監査等委員は、取締役会を始めとする各種の重要な会議への出席、重要な書類の閲覧、関係会社を含む各部署の業務執行状況や内部統制の整備・運用状況に関するヒアリングや往査、棚卸への立会いを含む四半期・期末決算監査等を担っており、非常勤監査等委員は、取締役会や指名・報酬委員会など特定の重要な会議への出席のほか、監査法人による関係会社への往査や棚卸への立会い、常勤監査等委員による業務監査記録の内容確認などを分担しています。

## 監査等委員である取締役の経験及び能力

勤務形態	属性	独立性	監査等委員就任期間（提出日現在）	氏名	経験及び能力
常勤	社内		1年	新井 三郎	銀行員としての職歴のほか、当社においては、管理本部長、チーフ・コンプライアンス・オフィサー、総務・人事本部長などの職歴があり、金融、財務・会計、コンプライアンス、ガバナンス、内部統制、監査業務などに係る十分な知見を有しています。
非常勤	社外	○	2年	杉田 雪絵	公認会計士として、財務会計アドバイザー業務や監査業務のほか、各種セミナーの講師を務めるなど、多面的で豊富な知見を有しています。また、社外役員としての経験も豊富であることから、当社の社外取締役、監査等委員として十分な知識、経験及び能力を有しています。
非常勤	社外	○	2年	山崎 雄一郎	企業法務やコンプライアンスを専門とする弁護士として、法曹実務・法曹養成に係る高い知識と豊富な経験を有しています。また、他社の社外取締役として、企業経営にも深く関与してきており、当社の社外取締役、監査等委員として十分な知識、経験及び能力を有しています。

## 1 - 2 . 監査等委員会の活動状況

### 監査等委員会の開催状況

- ・監査等委員会は監査等委員会規定により、原則として月1回開催し、必要があるときは随時開催できます。
- ・第76期（2024年4月～2025年3月）における監査等委員会の開催回数と各監査等委員の出席回数については、次の通りです。

監査等委員 氏名（今期の就任期間）	開催回数	出席回数（出席率）
清水 誠二（2024年4月～2024年5月）	2回	2回（100％）
新井 三郎（2024年6月～2025年3月）	9回	9回（100％）
杉田 雪絵（2024年4月～2025年3月）	11回	11回（100％）
山崎雄一郎（2024年4月～2025年3月）	11回	11回（100％）

当社は2025年6月27日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として「監査等委員である取締役2名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されると、当社の監査等委員である取締役は引き続き3名（内、社外取締役2名）で構成されることになります。

### 監査等委員会の具体的な検討内容

- ・第76期（2024年4月～2025年3月）の監査等委員会では、主に次のような決議事項・審議事項・協議事項・報告事項を取扱いました。

**決議事項：**取締役の選任及び報酬に係る指名・報酬委員会諮問案に対する意見書提出の件、社外役員に関する事業報告記載事項の件、監査の状況及び社外役員の状況に関する有価証券報告書記載事項の件、会計監査人の再任および監査報酬への同意の件、監査報告書承認の件、監査等委員会の組織体制・職務分担決定の件、監査計画承認の件、代表取締役との意見交換会テーマ選定の件、取締役会の実効性評価に係る取締役会上程資料承認の件

**審議事項：**取締役会の実効性評価の件

**協議事項：**監査等委員である取締役の月額報酬決定の件

**報告事項：**各種の監査記録《稟議書様式監査、業務執行取締役の職務執行確認書、半期末業務監査、会計監査人の評価、部門長・関係会社社長面談、各種チェックリスト（事業報告及び同附属明細書、計算書類・連結計算書類・同附属明細書、株主総会議案、会計監査人監査の相当性判断、会計監査人の監査報酬、会計監査人の再任判断に関する評価、金商法に基づく財務報告内部統制監査、内部統制システム監査、配当可能額計算シート、有価証券報告書の様式・連結財務諸表の記載内容）》、内部監査報告書、期末棚卸への立会い、コンプライアンス・ヘルプライン利用実績、内部監査室との定期連絡会議事録、監査法人海外往査立会、常勤監査等委員の月次活動記録

## 1 - 3 . 監査等委員の主な活動

### 常勤監査等委員

- ・取締役会、EC（EXECUTIVE COMMITTEE：経営会議）、内部統制委員会、サステナビリティ委員会、部門長連絡会、国内関係会社の予実及び経営管理を目的とする月次報告会等の重要な会議に出席し、取締役の職務の執行状況の実地検証を行うとともに、適宜、意見や助言あるいは問題点の指摘など監督機能を果たしました。
- ・任意の指名・報酬委員会にオブザーバーとして出席し、取締役の指名・報酬諮問案に関する審議状況について検証しました。
- ・業務執行取締役に對して、以下事項に関する各種報告、検証を通じて、業務執行取締役の職務の執行状況について検証を行いました。  
中期経営戦略の主要施策の進捗状況、固定資産の管理状況、各種コンプライアンス・プログラムの実施状況、平時のBCP活動状況、内部統制委員会・サステナビリティ委員会など各種委員会の活動状況、内部統制文書の整備運用状況、ITセキュリティ体制の現状、国内外の係争事件の有無、コンプライアンス事案の対応状況等
- ・会計監査人との年度監査計画説明会、期中レビュー結果報告会および通期の決算結果報告会等により、会計監査人との意思疎通や意見交換、情報共有を行うことを通じて、監査法人との連携強化に努めるとともに、会計監査人の評価に関する情報収集の場として活用しました。
- ・内部監査室と月次で定期連絡会を開催し、内部統制文書の整備・運用状況を含む監査に関する情報交換・情報共有を行うとともに、必要に応じて課題の指摘や助言を行いました。
- ・監査等委員会と代表取締役との間の十分な意思疎通を図り、相互認識と信頼関係を深めることを目的として、代表取締役との意見交換会を年度内に3回開催し、真摯かつ率直な意見交換を行いました。
- ・海外主要関係会社を往査し、監査等委員会監査を実施するとともに、一部行程を会計監査人の海外往査に合わせることで、会計監査人の作業状況を実地検証しました。
- ・取締役会資料・同議事録、EC資料・同議事録、決算短信、有価証券報告書、事業報告、稟議書など重要な文書の内容及び様式について検証を行い、必要に応じて指導・助言を行いました。

#### 非常勤監査等委員

- ・取締役会に出席し、他社例も交えた取締役会の効率的運用に資する提言や、議事内容に係る専門的見地からの助言や意見表明など、積極的に発言しました。
- ・監査等委員会では、独立社外取締役としての立場あるいは専門的な見地からの発言・意見表明等を通じて、監査等委員会の運営に主体的に参画するとともに、常勤監査等委員が実施した監査記録を確認し検証結果を共有しました。
- ・任意の指名・報酬委員会に主要メンバーとして出席し、取締役の指名・報酬諮問案に対して、独立した立場から公正かつ客観的な視点に基づく審議に努めました。
- ・会計監査人との年度監査計画説明会、期中レビュー結果報告会および通期の決算結果報告会では、当社の内部統制体制の整備・運用状況や決算に関する情報共有のほか、監査上の主要な検討事項（KAM）に関する意見交換等を行いました。
- ・年度内に3回開催された代表取締役との意見交換会では、それぞれ、「社長室の活動状況と、今後の戦略、方向性について」、「社長のサクセッション・プランを含む今後の経営幹部登用にに関する考え方について」、「中期経営戦略最終年度の目標達成の蓋然性、および達成に向けて課題と考えること」をテーマに、情報共有に基づく意見交換を行いました。
- ・関係子会社と監査法人による外部倉庫での実地棚卸に立会い、棚卸作業の検証を行いました。

#### 監査法人に対する金融庁の懲戒処分等に関する活動状況

- ・監査等委員会は、太陽有限責任監査法人が受けた2023年12月26日付の業務改善命令を含む金融庁処分について、その後も適時当法人より説明を受けておりますが、2024年7月1日付の業務改善報告書の提出をもって一定の改善が認められ、金融庁に対する業務改善報告が終了したことを確認しています。

### 2. 内部監査の状況等

#### 内部監査の組織・人員および手続

- ・内部監査室の要員数は現状4名(2025年5月末現在)です。
- ・当社では、内部監査室を社長直轄の組織としていますが、守りのガバナンスの実効性を担保する内部監査の信頼性確保に向けた取組として、内部監査が一定の独立性を以って有効に機能するよう、社長に対する報告に加えて、独立社外取締役を含む取締役会に対する直接報告が行われる仕組みを採用しているほか、内部統制システムの基本方針において、内部監査室専従者の異動については、監査等委員会の同意が必要である旨を定めています。

#### 三様監査に関する連携体制

- ・内部監査室では、限られた人数での内部監査の実効性を高めるため、三様監査の効率的な活用策として、監査等委員会および外部監査人とは、定期的あるいは必要に応じて適宜、情報交換・情報共有の場を設けています。

### 3. 会計監査の状況

#### a. 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

#### b. 継続監査期間

16年間

#### c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 高橋 康之  
指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 山田 大介

#### d. 監査業務における補助者の構成

公認会計士	9名
その他の補助者	23名

（注）「d. 監査業務における補助者の構成」の人数は、以下のルールで集計しております。

- ・会社法監査及び金融商品取引法監査（期中レビューも含む）に従事した補助者の人数を集計しております。
- ・監査業務期間中に公認会計士資格を登録した者については、最終関与日時時点で登録が完了している者を「公認会計士」に集計しております。
- ・監査業務期間中に退職した者については、最終関与日時点の資格情報に基づき集計しております。

#### e. 監査法人の選定方針と理由

##### (1) 金融庁による処分について

金融庁は、2023年12月26日、太陽有限責任監査法人及び公認会計士に対し、以下の懲戒処分等を行いました。

##### 処分の内容

- ・契約の新規の締結に関する業務の停止 3月（2024年1月1日から同年3月31日まで。ただし、既に監査契約を締結している被監査会社について、監査契約の期間更新や上場したことに伴う契約の新規の締結を除く。）
- ・業務改善命令（業務管理体制の改善）

- ・処分理由に該当することとなったことに重大な責任を有する社員が監査法人の業務の一部（監査業務に係る審査）に関与することの禁止 3月
  - ・課徴金納付命令に係る審判手続開始の決定（約96百万円）
- 処分理由
- ・他社の訂正報告書等の監査において、相当の注意を怠り、重大な虚偽のある財務書類を重大な虚偽のないものとして証明したことによるもの。

(2)再任理由

当社は、『会計監査人再任にあたっての基本方針』に定める「監査報酬の妥当性」「会計監査人の適格性」「監査計画および監査実施状況の妥当性」「監査の方法および実施状況の適切性」「当年度パフォーマンス」等の観点から会計監査人を選定しており、太陽有限責任監査法人はこれらの観点において十分に評価できるものと考え、監査法人に選定いたしました。

なお、このうち、「会計監査人の適格性」において、太陽有限責任監査法人は2023年12月に金融庁処分を受けておりましたが、2024年1月に業務改善計画を提出、その後の業務改善を経て、2024年7月の報告の提出をもって、金融庁への業務改善報告は終了しているとの報告を同監査法人より受けております。

f. 監査等委員会による会計監査人の評価

- ・監査等委員会は、会計監査人の品質管理の状況、監査チームの独立性・職業倫理、監査報酬の合理性、監査の有効性・効率性、コミュニケーションの状況等について個別に検証し、内部監査室や財務部等の社内関係部署へのヒアリングあるいは必要に応じて要請した書面での報告等も踏まえて、会計監査人の総合評価を行い、また昨年度の金融庁処分については改善が認められ、業務改善報告が終了したことが確認できたことから、太陽有限責任監査法人を会計監査人として再任することに懸念はないと評価しました。

4. 監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	39	-	42	-
連結子会社	-	-	-	-
計	39	-	42	-

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬（a.を除く）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	-	-	-	-
連結子会社	1	2	1	1
計	1	2	1	1

（注）連結子会社における非監査業務の内容は、財務監査レポート（日本語翻訳）および税務監査サービスであります。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容  
該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針  
該当事項はありませんが、企業規模および監査日数等を勘案した上、定めております。

e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

- ・ 監査等委員会は、会計監査人及び社内関係部署からの資料の入手及び報告の聴取を通じて、会計監査人の監査計画の内容、職務執行状況、報酬見積もりの算出根拠等について検討した結果、いずれも適切であると判断したため、会計監査人の報酬等について、会社法第399条第1項および第3項の同意をしています。

#### ( 4 ) 【 役員の報酬等 】

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

##### 役員報酬制度の基本方針

当社の企業理念を实践できる多様で優秀な人材を確保するために競争力のある報酬水準を目指します。また、透明性や公正性の高い決定プロセスとするため、取締役会は、取締役会の諮問機関として設置された任意の指名・報酬委員会の答申を踏まえて決定しております。

##### 監査等委員でない取締役の役職ごとの報酬方針

( ) 社長の固定報酬

基礎報酬に、過年度の支給実績を踏まえた中長期実績見合いを加算して月の固定報酬とします。

( ) 社長の業績連動報酬

短期の業績連動報酬として、「短期インセンティブ」(後述)で算出した金額を役員賞与とします。

( ) 社長以外の監査等委員でない取締役の報酬

社長以外の監査等委員でない取締役の報酬については、月額報酬、役員賞与とともに、社長の金額を100%として、その職責に応じた支給割合を乗じた金額を目処としています。

ただし、業績連動報酬については、各取締役の賞与査定結果を反映したものとなります。

##### 方針の決定権限を有する者の名称、権限の内容

役員報酬の方針の決定権限を有する機関は、取締役会です。取締役会は、指名・報酬委員会の意見を踏まえ、役員報酬に関する基本的な考え方や構成、業績連動報酬に係る指標等を決定します。

##### 役員報酬の決定に関与する委員会

監査等委員でない取締役の報酬は、代表取締役より、指名・報酬委員会に上記の考え方に基づいて算出された個人別の諮問案が提出され、当該諮問案に対する同委員会の答申書を踏まえて、取締役会で決定されます。

##### 業績連動報酬とそれ以外の報酬等の支払割合の決定方針

取締役の報酬は、基本報酬となる固定月額報酬および単年度の業績連動報酬となる役員賞与に加えて、中長期インセンティブ(株式報酬)として、役位毎に定めた定額の報酬テーブルに見合う特定譲渡制限付株式(RS)の交付制度を採用しております。

なお、各報酬の支給割合は達成した業績および個人評価に応じて決定します。

##### 短期の業績連動報酬に係る指標

短期の業績連動報酬に係る指標は、単年度の連結経常利益とします。なお、短期インセンティブは、単年度の連結経常利益に基づく業績連動報酬が該当し、役員賞与として支給します。

##### 指標を選択した理由

短期の業績連動報酬の指標は、グループ全体の経営成績が反映するよう当該年度の連結経常利益としています。

##### 業績連動報酬の額の決定方法

代表取締役による諮問案に基づき、取締役会の諮問機関として設置された任意の指名・報酬委員会の答申、および監査等委員会の意見を踏まえて取締役会で決定します。

##### 監査等委員である取締役の報酬

監査等委員である取締役の報酬は、業務執行役員である監査等委員でない取締役の基礎報酬から、業務執行責任部分や勤務形態(常勤・非常勤)、社外性相当分を加減した固定月額報酬を原則とします。

手続の概要は以下のとおりです。

代表取締役は、監査等委員会に監査等委員である取締役の月額報酬案を提案します。

監査等委員は、代表取締役から提案された月額報酬案を参考にして、監査等委員である取締役の月額報酬を協議の上、決定し、結果を取締役に報告します。

なお、取締役としての責務に鑑み、中長期インセンティブとして、監査等委員でない取締役と同等の特定譲渡制限付株式(RS)を交付します。

取締役に対し報酬等を与える時期または条件の決定方針

取締役に対し報酬等を与える時期は、報酬の種類ごとの目的に応じて定めることとします。生活基礎給としての基本報酬の支給時期は、毎月の従業員の給与支給日に合わせるものとします。  
単年度の業績連動報酬としての役員賞与の支給時期は、原則として毎年1回、当該年度の定時株主総会が終了した日の翌営業日を目処とします。  
取締役に対する中長期インセンティブとして、特定譲渡制限付株式(RS)の交付時期は、特定譲渡制限付株式交付に関する規程に従い、取締役就任後間もない毎年7月20日を目処とします。

最近事業年度における業績連動報酬に係る目標、実績

2024年度 期初の業績予想：連結経常利益 9億円  
2024年度 連結経常利益 21億円

役員報酬等に関する株主総会決議

監査等委員でない取締役の報酬限度額は、2015年6月26日開催の第66回定時株主総会において年額2億円以内（ただし、使用人兼務取締役に対する使用人部分の給与は含まない）と決議いただいております。当該株主総会終結時点の員数は、監査等委員でない取締役8名です。なお、当該報酬限度額とは別枠として、特定譲渡制限付株式の交付に関しては、当該株式交付のために支給する報酬は金銭債権とし、支給された金銭債権の全部を現物出資財産として払い込むことで、当該株式の交付を受けることとなりますが、その金銭債権の総額の上限金額は、2018年6月28日開催の第69回定時株主総会において、年額2千5百万円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の員数は、監査等委員でない取締役8名です。  
また、監査等委員である取締役の報酬限度額は、2015年6月26日開催の第66回定時株主総会において年額4千万円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の員数は、監査等委員である取締役3名です。なお、監査等委員である取締役に対する特定譲渡制限付株式交付に関しては、監査等委員でない取締役の場合と同様、当該株式交付のために支給する報酬は金銭債権とし、支給された金銭債権の全部を現物出資財産として払い込むことで、当該株式の交付を受けることとなりますが、その金銭債権の総額の上限金額は、2018年6月28日開催の第69回定時株主総会において、年額1千万円以内と決議いただいております。当該株主総会終結時点の員数は、監査等委員である取締役3名です。

直近年度の役員報酬等の額の決定過程における取締役会、委員会等の活動内容

2024年3月29日、指名・報酬委員会において、代表取締役が策定した報酬案について協議し、取締役会に答申書を提出しました。  
2024年4月8日、監査等委員会は、指名・報酬委員会の答申書に基づいて協議し、取締役会に意見書を提出しました。  
2024年6月27日、取締役会は、指名・報酬委員会の答申書および監査等委員会の意見書を踏まえて、役員報酬を決議しました。  
2024年6月27日、取締役会は、規定に基づいて、特定譲渡制限付株式交付を決議しました。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

区 分	報酬等の総額 （百万円）	報酬等の種類別の総額（百万円）			対象となる 役員の員数 （人）
		固定報酬	業績連動報酬	株式報酬	
取締役（監査等委員及び社外取締役を除く）	70	39	25	5	4
取締役（監査等委員）	37	32	-	4	4
社外取締役（監査等委員）	20	18	-	2	2

(注)1．役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので記載を省略しております。  
2．取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人部分の給与は含まれておりません。  
3．上記金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。



( 5 ) 【株式の保有状況】

保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）の区分の基準や考え方  
当社は、専ら株式の価値の変動や株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする純投資目的で株式を取得し保有することは原則として行いませんが、純投資目的以外の目的として、政策保有株式を通じた企業間連携等が当社の事業上の利益に繋がるとの基本的な考えの下、政策保有株式を取得し保有することがあります。なお、当初、政策保有株式として取得した株式でも、毎年実施する検証の結果、政策保有株式として継続保有に適さないと判断した場合には縮減を進めます。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針および保有の合理性を検証する方法ならびに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容  
(政策保有株式に関する方針)

当社は、当社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上に資すると認められる企業の株式を政策的に取得・保有することを政策保有株式の方針とします。政策保有株式については、株式を安定的に保有することにより取引関係の強化が図られることを通じて、当社の企業価値向上に寄与する場合のほか、発行企業への経営参画を通じた企業価値向上を企図する場合があります。なお、保有による便益や経済合理性あるいは資本効率の観点から、保有の妥当性を総合的に判断するため、毎年、取締役会で個別銘柄毎に定性的・定量的な検証を行います。検証の結果、継続保有に適さないと判断した政策株式については縮減を進めます。

(政策保有株式の保有の合理性を検証する方法)

銘柄毎に保有の合理性を検証するプロセスについては、保有目的が適切かどうかを判定するための定性項目として、当社が適切と考える保有目的に該当しているかどうかを確認すること、定量面では、財務面の便益の有無を確認することに加えて、財務面の便益が資本コストに見合っているかどうかを確認します。さらに、こうした定性面、定量面での検討に加えて、保有を継続した場合、あるいは縮減した場合の両面で、将来顕現化する恐れのあるリスクについても勘案した上で、総合的な見地から継続保有の適否の判断を行います。

〔定性面〕で該当の有無を確認する適切な保有目的と考えるものは、以下の通りです。

- ・安定株主を確保するため
- ・製造、仕入、販売、物流、金融、保険サービス等の取引先として、安定的な関係や良好な取引条件、利便性等を確保するため
- ・協力関係先や業務提携先との間の利便性や融通性の向上、さらにはシナジー効果を高めるため
- ・業界等の関連情報の収集をしやすくするため
- ・将来、取引関係を構築するため
- ・将来、提携・協力関係を構築するため

〔定量面〕での検討事項は、以下の通りです。

- ・財務面の便益（キャピタルゲイン＋インカムゲイン＋取引に起因する利益(営業利益)）の有無の確認
- ・財務面の便益が資本コストを上回っているかどうかを確認

資本コストについては、当社の資金調達方法に鑑み、加重平均資本コスト（WACC）を使用します。WACCを構成する株主資本コストの算出にはCAPMを使用します。CAPMに代入するデータについては、政策保有株式の継続保有の適否の検証を年1回各年度末の保有状況に対して実施することを勘案して、当該年度の実績を使用します。負債コストについても同様に当該年度の加重平均借入コストを使用します。この結果、定量面での検討項目については、過去の実績に基づいて、これから1年間の保有適否の判断基準とすることから、そもそも判断基準としての限界がありますが、これを補強することを目的として、最終的に継続保有の適否を判断する際には、保有を継続した場合あるいは縮減した場合の両面で、将来、顕現化する恐れのあるリスクについても勘案することとしています。

(政策保有株式について、個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等の検証の内容)

当社は、年に1回、3月末の連結決算期末に保有している株式を個別銘柄毎に、継続保有の適否を上記の検証プロセスを用いて検証する議案を取締役に上程します。

b. 銘柄数および貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	4	172
非上場株式以外の株式	8	4,145

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	19	持株会による買付

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

c. 特定投資株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
(株)良品計画	805,173	798,374	当社グループ製品の主要販売先として、営業取引を行っております。 株式数増加の理由は持株会による買付によるものです。	無
	3,269	2,015		
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	222,100	222,100	主要取引金融機関として、国内外の資金調達を中心とした金融取引や事業推進への協力を受けております。	有
	446	345		
三菱鉛筆(株)	79,860	79,860	過去、合併企業を共同で設立・運営しており、業界知識や製品ノウハウを得る目的で保有しております。	有
	202	203		
(株)ナガホリ	36,300	36,300	店舗展開ノウハウ、百貨店等の業界情報の交換目的で保有しております。	有
	50	52		
MS&ADインシュアランスグループホールディングス(株)	24,639	8,213	主要取引損害保険会社として、国内外での保険取引を行っております。 株式数増加の理由は株式分割によるものです。	有
	79	66		
(株)デンキョーグループホールディングス	27,000	27,000	当社グループ製品の主要販売先として、営業取引を行っております。	有
	31	34		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	16,572	5,524	主要取引金融機関として、国内外の資金調達を中心とした金融取引や事業推進への協力を受けております。 株式数増加の理由は株式分割によるものです。	有
	62	49		

保有目的が純投資目的の投資株式

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の財務諸表について太陽有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための取組としては、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同基準機構等が主催するセミナーに参加しています。また、セミナー以外に毎週発刊される専門書籍を購読し、担当部署に所属する全員が会計基準の変更等について共有する体制を構築しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## ( 1 ) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,442,159	7,721,166
受取手形	24,938	20,138
売掛金	6,308,168	4,173,244
契約資産	1,993	1,534
商品及び製品	4,432,537	4,357,436
仕掛品	33,042	60,372
原材料及び貯蔵品	183,370	272,084
前渡金	65,949	36,959
前払費用	146,215	133,315
その他	190,158	436,916
貸倒引当金	8,543	8,328
流動資産合計	15,819,990	17,204,840
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2 868,919	2 692,393
機械装置及び運搬具（純額）	104,757	89,953
工具、器具及び備品（純額）	92,479	50,639
土地	2, 3 559,518	2, 3 559,518
リース資産（純額）	916	537
建設仮勘定	0	0
その他	67,033	158,243
有形固定資産合計	1 1,693,625	1 1,551,285
無形固定資産	254,078	222,170
投資その他の資産		
投資有価証券	3,000,178	4,370,475
長期貸付金	62	-
繰延税金資産	23,731	18,060
その他	472,920	376,333
貸倒引当金	36,936	35,198
投資その他の資産合計	3,459,956	4,729,671
固定資産合計	5,407,660	6,503,127
資産合計	21,227,651	23,707,967

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,005,695	2,210,190
短期借入金	2 1,355,755	2 3,621,413
1年内償還予定の社債	2 1,950,000	-
1年内返済予定の長期借入金	2 1,150,000	-
リース債務	36,292	66,536
未払法人税等	212,008	505,499
契約負債	85,546	53,334
賞与引当金	281,734	313,259
役員賞与引当金	21,600	25,540
未払金	784,194	812,166
未払費用	313,567	254,263
未払消費税等	77,499	55,607
その他	238,110	190,417
流動負債合計	8,512,005	8,108,227
固定負債		
長期借入金	50,000	2 500,000
リース債務	30,333	85,791
繰延税金負債	480,887	803,106
再評価に係る繰延税金負債	48,964	50,403
退職給付に係る負債	386,520	509,394
役員退職慰労引当金	34,834	15,915
資産除去債務	150,763	172,944
その他	37,823	32,307
固定負債合計	1,220,128	2,169,863
負債合計	9,732,133	10,278,090
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,914	1,000,914
資本剰余金	687,929	682,956
利益剰余金	7,973,032	8,671,347
自己株式	464,600	389,456
株主資本合計	9,197,276	9,965,762
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,510,205	2,415,321
繰延ヘッジ損益	3,624	8,002
土地再評価差額金	3 110,945	3 109,506
為替換算調整勘定	579,435	896,072
その他の包括利益累計額合計	2,204,210	3,412,897
新株予約権	47,745	1,373
非支配株主持分	46,285	49,843
純資産合計	11,495,517	13,429,876
負債純資産合計	21,227,651	23,707,967

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高	36,688,565	39,861,723
売上原価	<sup>4</sup> 26,941,780	<sup>4</sup> 29,565,262
売上総利益	9,746,785	10,296,461
販売費及び一般管理費		
販売費	1,985,762	2,066,345
一般管理費	6,597,360	6,133,254
販売費及び一般管理費合計	<sup>1</sup> 8,583,123	<sup>1</sup> 8,199,599
営業利益	1,163,661	2,096,861
営業外収益		
受取利息	40,810	50,693
受取配当金	50,170	54,766
為替差益	4,183	-
助成金収入	6,507	15,944
その他	17,511	25,370
営業外収益合計	119,183	146,775
営業外費用		
支払利息	30,255	23,834
為替差損	-	63,076
その他	4,499	7,696
営業外費用合計	34,755	94,607
経常利益	1,248,089	2,149,028
特別利益		
固定資産売却益	<sup>2</sup> 6,789	<sup>2</sup> 23
特別利益合計	6,789	23
特別損失		
固定資産除却損	<sup>3</sup> 14,853	<sup>3</sup> 638
賃貸借契約解約損	<sup>5</sup> 16,460	<sup>5</sup> 6,310
減損損失	<sup>10</sup> 161,324	<sup>10</sup> 328,373
特別退職金	-	<sup>7</sup> 48,927
事業整理損	-	<sup>9</sup> 95,522
契約解除損	-	<sup>8</sup> 15,981
関係会社整理損	<sup>6</sup> 126,772	<sup>6</sup> 2,804
特別損失合計	319,410	498,557
税金等調整前当期純利益	935,467	1,650,494
法人税、住民税及び事業税	437,124	792,498
法人税等調整額	43,250	120,044
法人税等合計	393,873	672,453
当期純利益	541,594	978,040
非支配株主に帰属する当期純利益	3,456	3,557
親会社株主に帰属する当期純利益	538,137	974,483

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
当期純利益	541,594	978,040
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	784,165	905,115
繰延ヘッジ損益	70,784	11,626
土地再評価差額金	-	1,439
為替換算調整勘定	179,135	316,637
その他の包括利益合計	1,034,085	1,208,687
包括利益	1,575,679	2,186,727
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,572,223	2,183,170
非支配株主に係る包括利益	3,456	3,557

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,000,914	692,170	7,541,376	322,082	8,912,378
当期変動額					
剰余金の配当			47,940		47,940
連結範囲の変動			58,540		58,540
親会社株主に帰属する当期純利益			538,137		538,137
自己株式の取得				189,165	189,165
自己株式の処分		4,241		46,647	42,406
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	4,241	431,656	142,518	284,897
当期末残高	1,000,914	687,929	7,973,032	464,600	9,197,276

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主 持分	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算調 整勘定	その他の包 括利益累計 額合計			
当期首残高	726,039	67,160	110,945	400,300	1,170,125	72,301	42,829	10,197,635
当期変動額								
剰余金の配当								47,940
連結範囲の変動								58,540
親会社株主に帰属する当期純利益								538,137
自己株式の取得								189,165
自己株式の処分								42,406
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	784,165	70,784	-	179,135	1,034,085	24,556	3,456	1,012,985
当期変動額合計	784,165	70,784	-	179,135	1,034,085	24,556	3,456	1,297,882
当期末残高	1,510,205	3,624	110,945	579,435	2,204,210	47,745	46,285	11,495,517



当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,000,914	687,929	7,973,032	464,600	9,197,276
当期変動額					
剰余金の配当			258,168		258,168
連結範囲の変動			18,000		18,000
親会社株主に帰属する当期純利益			974,483		974,483
自己株式の取得				654	654
自己株式の処分		4,972		75,798	70,825
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	4,972	698,314	75,144	768,486
当期末残高	1,000,914	682,956	8,671,347	389,456	9,965,762

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	1,510,205	3,624	110,945	579,435	2,204,210	47,745	46,285	11,495,517
当期変動額								
剰余金の配当								258,168
連結範囲の変動								18,000
親会社株主に帰属する当期純利益								974,483
自己株式の取得								654
自己株式の処分								70,825
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	905,115	11,626	1,439	316,637	1,208,687	46,371	3,557	1,165,872
当期変動額合計	905,115	11,626	1,439	316,637	1,208,687	46,371	3,557	1,934,359
当期末残高	2,415,321	8,002	109,506	896,072	3,412,897	1,373	49,843	13,429,876

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	935,467	1,650,494
減価償却費	349,745	243,128
貸倒引当金の増減額（ は減少）	4,611	3,389
賞与引当金の増減額（ は減少）	9,265	26,336
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	114,108	88,359
受取利息及び受取配当金	90,980	105,459
支払利息	30,255	23,834
固定資産除却損	14,853	638
減損損失	161,324	328,373
固定資産売却損益（ は益）	6,789	23
売上債権の増減額（ は増加）	1,989,417	2,315,987
棚卸資産の増減額（ は増加）	1,181,688	7,896
仕入債務の増減額（ は減少）	163,162	74,001
未払消費税等の増減額（ は減少）	60,673	140,580
その他	26,253	287,946
小計	833,653	4,205,857
利息及び配当金の受取額	90,980	105,459
利息の支払額	29,788	24,289
法人税等の支払額	365,159	511,237
営業活動によるキャッシュ・フロー	529,685	3,775,790
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	323,564	153,396
有形固定資産の売却による収入	68,955	23
無形固定資産の取得による支出	12,797	11,322
投資有価証券の取得による支出	19,616	19,967
貸付金の回収による収入	9,378	62
その他	159,088	102,192
投資活動によるキャッシュ・フロー	118,556	82,407
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	393,897	2,265,297
自己株式の取得による支出	189,165	654
自己株式の売却による収入	11	26
長期借入れによる収入	-	450,000
長期借入金の返済による支出	-	1,150,000
社債の償還による支出	-	1,950,000
配当金の支払額	47,940	258,168
その他	45,059	45,937
財務活動によるキャッシュ・フロー	676,051	689,436
現金及び現金同等物に係る換算差額	158,684	275,060
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	106,237	3,279,006
現金及び現金同等物の期首残高	4,444,980	4,442,159
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	103,417	-
現金及び現金同等物の期末残高	4,442,159	7,721,166

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 16社

主要な連結子会社の名称

TRIACE LIMITED、㈱ベネクシー、SANYEI CORPORATION(MALAYSIA)SDN.BHD.、三暉国際貿易(上海)有限公司、  
三發電器製品(東莞)有限公司、㈱ベピカ

連結の範囲の変更

㈱エッセンコーポレーションについては解散し、当連結会計年度において清算終了したため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成にあたっては連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております。)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(ロ) デリバティブ

時価法

(ハ) 棚卸資産

商品、製品、原材料、仕掛品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しておりますが、一部の商品につきましては総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産(リース資産を除く)

当社および国内連結子会社は定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

在外連結子会社は所在地国の会計基準の規定に基づいて、一部の子会社を除いて定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～50年

機械装置及び運搬具 3～15年

工具、器具及び備品 2～20年

(ロ) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(ハ) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

(ロ) 役員賞与引当金

当社および国内連結子会社は役員賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しております。

(ハ) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し回収不能見込額を計上しております。

(ニ) 役員退職慰労引当金

国内連結子会社は役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社および連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社および連結子会社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下の通りです。

＜商品及び製品の販売＞

当社および連結子会社は、生活関連用品の販売を生業としており、商品及び製品を顧客へ引き渡すことが主な履行義務となります。

国内取引では、出荷時から商品又は製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。

輸出取引では、商品又は製品の所有にかかるリスクおよび経済価値が顧客に移転する時期に応じて、主に、船積日又は顧客に引き渡された時点等で収益を認識しております。

(6) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産および負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および非支配株主持分に含めております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

(イ) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

(ロ) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約取引

ヘッジ対象・・・外貨建債務および外貨建予定取引

(ハ) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する社内規定に基づき、外貨建の輸入および輸出契約における為替変動リスクをヘッジするため、実需原則の範囲内で為替予約取引を行うものとしております。

(ニ) ヘッジ有効性評価の方法

上記のヘッジ方針に加え、為替予約取引についてはヘッジ対象と同一通貨建のものを締結しており高い有効性があることから、有効性の評価を省略しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金および取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

1. 棚卸資産の評価

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
棚卸資産	4,648,949	4,689,894
売上原価	252,098	19,650
事業整理損	-	95,522

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループは、「OEM事業」となっており、自社ブランドや海外の秀逸なブランドを販売する「ブランド事業」を展開しており、当連結会計年度末において、ブランド事業にかかる棚卸資産3,807,957千円を連結貸借対照表に計上しております。

連結子会社において、主に海外ブランド商品を取り扱う場合、販売の見込みに基づき一定時期にまとめて海外メーカーに発注し、一定量を在庫として保有する必要がありますが、実際の受注や販売が見込みどおりとならないことがあるため、保有する棚卸資産が過剰在庫となる可能性があります。

当社グループでは、不良品や劣化品および陳腐化品を適時に把握・処理するため、各社ごとに、棚卸資産の評価基準を経理規則において定めており、決算時には、正味売却可能価額が取得原価を下回った棚卸資産について、正味売却可能価額まで取得原価を切り下げています。また、得意先からの受注によるOEM商品や新規扱い商品以外の棚卸資産について、直近の販売実績に基づき過剰在庫相当額を把握し、上記評価基準に基づき一定割合を切り下げています。

今後、市場動向の変化等により、正味売却可能価額や過剰在庫相当額の見積りに見直しが必要となった場合は、翌連結会計年度以降の連結財務諸表に影響する可能性があります。

2. 固定資産の減損

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
有形固定資産	1,693,625	1,551,285
無形固定資産	254,078	222,170
減損損失	161,324	328,373

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループでは、事業部、または、連結子会社ごとに取り扱っている商品が異なり、それぞれが独立したキャッシュ・フローを生成しているため、事業部、または、連結子会社別に固定資産をグルーピングしていますが、主に「ブランド事業」を展開する連結子会社においては、小売店舗がキャッシュ・フローの最小生成単位と考えられるため、小売店舗別に固定資産をグルーピングしています。

当連結会計年度末において、有形固定資産1,551,285千円、無形固定資産222,170千円を連結貸借対照表に計上していますが、当社グループでは、資産又は資産グループ別に営業損益や不動産時価から減損の兆候を把握し、兆候のある資産又は資産グループについては、将来キャッシュ・フローの見積りを行い、減損の認識および測定をしております。

将来キャッシュ・フローの算定にあたっては、事業部、または、連結子会社の翌年度予算や中期事業計画、店舗ごとに策定された事業計画を基礎としています。当該事業計画等は、売上高成長率や売上高総利益率、経費削減額等に関する仮定に基づいており、決算時点で入手可能な情報に基づき合理的に判断していますが、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合には、翌連結会計年度以降の連結財務諸表において追加の減損損失が発生する可能性があります。

( 会計方針の変更 )

( 「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用 )

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」( 企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。 ) 等を当連結会計年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分( その他の包括利益に対する課税 ) に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」( 企業会計基準適用 指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。 ) 第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、これによる連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当連結会計年度の期首から適用しております。なお、これによる連結財務諸表への影響はありません。

( 未適用の会計基準等 )

- ・ 「リースに関する会計基準」( 企業会計基準第34号 2024年 9 月13日 企業会計基準委員会 )
- ・ 「リースに関する会計基準の適用指針」( 企業会計基準適用指針第33号 2024年 9 月13日 企業会計基準委員会 ) 等

(1) 概要

企業会計基準委員会において、日本基準を国際的に整合性のあるものとする取組みの一環として、借手の全てのリースについて資産及び負債を認識するリースに関する会計基準の開発に向けて、国際的な会計基準を踏まえた検討が行われ、基本的な方針として、IFRS第16号の単一の会計処理モデルを基礎とするものの、IFRS第16号の全ての定めを採り入れるのではなく、主要な定めのみを採り入れることにより、簡素で利便性が高く、かつ、IFRS第16号の定めを個別財務諸表に用いても、基本的に修正が不要となることを目指したリース会計基準等が公表されました。

借手の会計処理として、借手のリースの費用配分の方法については、IFRS第16号と同様に、リースがファイナンス・リースであるかオペレーティング・リースであるかにかかわらず、全てのリースについて使用権資産に係る減価償却費及びリース負債に係る利息相当額を計上する単一の会計処理モデルが適用されます。

(2) 適用予定日

2028年 3 月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中でありません。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	3,322,965千円	3,532,632千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
建物及び構築物	610,835千円	611,457千円
土地	424,827	424,827
計	1,035,662	1,036,284

上記に対応する債務の額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
短期借入金	1,220,755千円	3,260,280千円
1年内償還予定の社債	1,950,000	-
1年内返済予定の長期借入金	750,000	-
長期借入金	-	250,000
計	3,920,755	3,510,280
上記の資産に対する根抵当権の極度額	2,400,000	2,400,000

3 土地再評価

「土地の再評価に関する法律」(1998年3月31日公布法律第34号)および「土地の再評価に関する法律を改正する法律」(2001年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

- ・再評価の方法...「土地の再評価に関する法律施行令」(1998年3月31日公布政令第119号)第2条第1号に定める標準地の公示価格に合理的な調整を行って算定しております。
- ・再評価を行った年月日...2002年3月31日

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価 と再評価後の帳簿価額との差額	137,036千円	161,404千円

(連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
輸出及び諸手数料	903,931千円	928,758千円
従業員給与及び賞与	3,067,065	2,835,051
減価償却費	252,234	182,955
退職給付費用	168,307	248,792
役員退職慰労引当金繰入額	6,793	2,618
賞与引当金繰入額	281,154	310,978
貸倒引当金繰入額	4,183	834
役員賞与引当金繰入額	23,840	32,000
地代家賃	693,935	504,851

## 2 固定資産売却益

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)における固定資産売却益6,789千円は、主に㈱ベネクシーの店舗閉鎖に係る建物附属設備等の売却によるものです。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)における固定資産売却益23千円は、主に備品の売却によるものです。

## 3 固定資産除却損

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)における固定資産除却損14,853千円は、主に㈱エッセンコーポレーションの解散に係る建物附属設備等の除却および㈱ベネクシーの店舗閉鎖に係る建物附属設備等の除却によるものです。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)における固定資産除却損638千円は、主に㈱ベネクシーの店舗閉鎖に係る建物附属設備等の除却によるものです。

## 4 期末棚卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次の棚卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
	252,098千円	19,650千円

## 5 賃貸借契約解約損

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)における賃貸借契約解約損16,460千円は、ブランド販売子会社における小売店舗退店に係る残存契約期間の賃借料の解約損となります。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)における賃貸借契約解約損6,310千円も、前年同様の内容です。

## 6 関係会社整理損

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)における関係会社整理損126,772千円は、2024年2月に解散した当社子会社㈱エッセンコーポレーションにおける棚卸資産の廃棄や退職金等の整理損によるものです。

当連結会計年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)における関係会社整理損2,804千円は、当社子会社であった㈱エッセンコーポレーションの清算に係る最終の諸費用の計上によるものです。



7 特別退職金

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）における特別退職金48,927千円は、当社子会社㈱ベネクシーの事業再編に係る人員整理費用の計上によるものです。

8 契約解除損

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）における契約解除損15,981千円は、当社子会社㈱ベネクシーでの一部海外ブランド契約解除に係る費用によるものです。

9 事業整理損

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）における事業整理損95,522千円は、当社子会社㈱ベネクシーにおいて取扱い終了を決定したブランド商品の整理損となります。

## 10 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

場所	用途	種類	金額
中国、ベトナム他	工場	工具、建設仮勘定	25,970千円
沖縄県浦添市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	18,053
東京都新宿区	小売店舗	建物、保証金	17,753
東京都台東区、福岡県福岡市	本社、事業所	建物、器具及び備品、ソフトウェア	10,817
千葉県船橋市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	9,902
大阪府泉佐野市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	9,679
神奈川県横浜市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	9,504
愛知県名古屋市	小売店舗	器具及び備品、保証金	8,712
福岡県福岡市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	8,353
三重県桑名市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	6,896
岐阜県土岐市	小売店舗	保証金	5,188
中国東莞	工場	工具	5,079
東京都台東区	事業所	ソフトウェア	3,465
愛知県名古屋市	小売店舗	建物、器具及び備品	3,199
神奈川県海老名市	小売店舗	建物、保証金	2,495
埼玉県入間市	小売店舗	器具及び備品、保証金	2,338
千葉県木更津市	小売店舗	保証金	1,986
東京都足立区	小売店舗	建物、器具及び備品	1,768
神奈川県川崎市	小売店舗	保証金	1,701
京都府京都市	小売店舗	建物	1,647
沖縄県豊見城市	小売店舗	保証金	1,573
神奈川県横浜市	小売店舗	建物、保証金	1,540
滋賀県蒲生郡	小売店舗	建物、器具及び備品	977
埼玉県越谷市	小売店舗	建物	675
千葉県柏市	小売店舗	建物、器具及び備品	191

当社グループは、事業部、または、連結子会社別に固定資産をグルーピングしていますが、主に「ブランド事業」を展開する連結子会社においては、小売店舗がキャッシュ・フローの最小生成単位と考えられるため、小売店舗別に固定資産をグルーピングしています。

当連結会計年度において、小売店舗資産については、同業他社との競合による収益性低下により、また、本社、事業所および工場設備については、採算性の悪化による収益性の低下により、投資額の回収が困難と見込まれるため、回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当社グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを2.76%で割り引いて算定しております。

また、当社保有の一部の土地について、帳簿価額を市場価格まで減損しております。（1,849千円）

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

場所	用途	種類	金額
東京都台東区	事務所、倉庫等	建物、工具、器具及び備品、ソフトウェア、商標権、保証金	98,876千円
東京都新宿区	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	50,931
中国	工場	工具、建設仮勘定	29,578
東京都立川市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	22,665
神奈川県横浜市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	21,882
兵庫県神戸市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	17,198
熊本県熊本市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	16,674
大阪府大阪市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	15,066
東京都豊島区	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	12,973
埼玉県さいたま市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	9,053
東京都武蔵野市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	7,937
埼玉県越谷市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	6,928
長崎県長崎市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	6,907
東京都中央区	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	5,040
沖縄県豊見城市	小売店舗	建物、器具及び備品、保証金	3,903
京都府京都市	小売店舗	建物	1,256
東京都千代田区	小売店舗	器具及び備品、保証金	1,207
福岡県福岡市	小売店舗	器具及び備品	145
宮城県仙台市	小売店舗	器具及び備品	145

当社グループは、事業部、または、連結子会社別に固定資産をグルーピングしていますが、主に「ブランド事業」を展開する連結子会社においては、小売店舗がキャッシュ・フローの最小生成単位と考えられるため、小売店舗別に固定資産をグルーピングしています。

当連結会計年度において、小売店舗資産については、同業他社との競合による収益性低下により、また、本社、事業所および工場設備については、採算性の悪化による収益性の低下により、投資額の回収が困難と見込まれるため、回収可能価額まで減額し、減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当社グループの回収可能価額は、使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを2.59%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,130,247千円	1,350,329千円
法人税等及び税効果調整前	1,130,247	1,350,329
法人税等及び税効果額	346,081	445,214
その他有価証券評価差額金	784,165	905,115
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	3,347	11,395
組替調整額	94,407	3,347
法人税等及び税効果調整前	97,754	14,742
法人税等及び税効果額	26,970	3,116
繰延ヘッジ損益	70,784	11,626
土地再評価差額金：		
法人税等及び税効果額	-	1,439
土地再評価	-	1,439
為替換算調整勘定：		
当期発生額	179,135	316,637
為替換算調整勘定	179,135	316,637
その他の包括利益合計	1,034,085	1,208,687

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	2,552,946	-	-	2,552,946
合計	2,552,946	-	-	2,552,946
自己株式				
普通株式 (注)	162,265	80,094	23,500	218,859
合計	162,265	80,094	23,500	218,859

(注) 普通株式の増加株式数は、取締役会の決議に基づく自己株式の取得80,000株および単元未満株の買取り94株であり、減少株式数は、譲渡制限付株式の交付11,900株および新株予約権の行使11,600株によるものです。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	当連結会計 年度末残高 (千円)
提出会社(親会社)	ストック・オプションとしての新株予約権	47,745
合計		47,745

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
2023年5月23日 取締役会	普通株式	23,906	10	2023年3月31日	2023年6月15日
2023年10月31日 取締役会	普通株式	24,034	10	2023年9月30日	2023年12月1日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2024年5月22日 取締役会	普通株式	163,386	利益剰余金	70	2024年3月31日	2024年6月13日

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注1、2）	2,552,946	7,658,838	-	10,211,784
合計	2,552,946	7,658,838	-	10,211,784
自己株式				
普通株式（注1、3）	218,859	659,081	142,800	735,140
合計	218,859	659,081	142,800	735,140

（注）1．当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。

2．普通株式の発行済株式総数の増加7,658,838株は株式分割によるものであります。

3．普通株式の自己株式数の増加は、株式分割によるもの656,577株、譲渡制限付株式の無償取得2,400株および単元未満株の買取り104株であり、減少株式数は、譲渡制限付株式の交付38,800株および新株予約権の行使104,000株によるものです。

2．新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	当連結会計 年度末残高 （千円）
提出会社（親会社）	ストック・オプションとしての新株予約権	1,373
合計		1,373

3．配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
2024年5月22日 取締役会	普通株式	163,386	70	2024年3月31日	2024年6月13日
2024年10月31日 取締役会	普通株式	94,782	40	2024年9月30日	2024年12月2日

（注）当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

（2）基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
2025年5月22日 取締役会	普通株式	199,009	利益剰余金	21	2025年3月31日	2025年6月13日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
現金及び預金勘定	4,442,159千円	7,721,166千円
現金及び現金同等物	4,442,159	7,721,166

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については主に短期的な預金等とし、基本的には借入金の返済を第一に考え、財務内容の健全性を図っています。また、資金調達については、銀行借入を基本としています。デリバティブは、外貨建ての輸入および輸出契約における為替変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引を行わない方針です。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

当社は、リスク管理を経営の重要課題と位置付け、リスクマネジメント規程を定め、同規程に基づきリスクマネジメント委員会を設置して顕在化しうるリスクを適切に認識し、リスクの顕在化防止のための管理体制の維持向上を行っています。当社の経営成績や財政状態に大きく影響を及ぼす可能性のあるリスクのうち、対応が必要なものを特定リスクとして指定し、金融商品については、市場リスク小委員会により、常時当該リスクを監視するとともに、リスク低減やリスク回避などの具体的対策を実施しています。

営業債権である受取手形、売掛金は、顧客の信用リスクに晒されていますが、当該リスクに関しては、与信リスク小委員会により、常時当該リスクを監視するとともに、当社の稟議規程および与信管理規程に従い、与信枠見直しを実施され、取引先の信用状況を把握しています。また、投資有価証券である株式は、市場リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に時価評価を実施し、経営者に報告しています。営業債務である支払手形及び買掛金は、すべて1年以内の支払期日です。また、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達ですが、社債および長期借入金は「流動性の確保」「金利上昇リスクのヘッジ」を主な目的に短期借入金からシフトしたものです。通貨関連のデリバティブ取引の実行および管理は財務部が市場リスク管理規定に従って実施しています。また、デリバティブ取引の契約先は信用度の高い銀行とのみ取引を行っています。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性評価の方法については、前述の「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項 (7)重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

## (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## (4) 信用リスクの集中

当連結会計年度末における営業債権のうち、45.8%（前連結会計年度は57.7%）が特定の大口顧客（株良品計画）に対するものであります。当社といたしましては、品質・付加価値の高い商品の提供を通じて、引き続き同社との取引拡大を目指してまいりますが、国内外で新たな取引先の開拓や新規成長事業を積極的に追求し売上高全体の底上げを図りたいと考えております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。「現金及び預金」については、現金であること、及び預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。また、「受取手形」「売掛金」「支払手形」「買掛金」「短期借入金」及び「未払金」についても、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

前連結会計年度(2024年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券			
其他有価証券			
株式( 1)	2,770,267	2,770,267	-
その他	57,659	57,659	-
資産計	2,827,926	2,827,926	-
(1) 社債	1,950,000	1,950,228	228
(2) 長期借入金	1,200,000	1,198,713	1,287
負債計	3,150,000	3,148,941	1,059
デリバティブ取引( 2)	8,144	8,144	-

- ( 1) 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券 其他有価証券 株式」には含まれておりません。  
当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円)
非上場株式	172,251

- ( 2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

当連結会計年度(2025年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 投資有価証券			
其他有価証券			
株式( 1)	4,145,510	4,145,510	-
その他	52,712	52,712	-
資産計	4,198,223	4,198,223	-
(1) 長期借入金	500,000	498,187	1,813
負債計	500,000	498,187	1,813
デリバティブ取引( 2)	368	368	-

- ( 1) 市場価格のない株式等は、「(1)投資有価証券 其他有価証券 株式」には含まれておりません。  
当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度(千円)
非上場株式	172,251

- ( 2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。



## (注) 1. 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	4,442,159	-	-	-	-	-
受取手形	24,938	-	-	-	-	-
売掛金	6,308,168	-	-	-	-	-
投資有価証券	-	-	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-	57,659	-	-	-
合計	10,775,266	-	57,659	-	-	-

当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
現金及び預金	7,721,166	-	-	-	-	-
受取手形	20,138	-	-	-	-	-
売掛金	4,173,244	-	-	-	-	-
投資有価証券	-	-	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの	-	52,712	-	-	-	-
合計	11,914,548	52,712	-	-	-	-

## (注) 2. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,355,755	-	-	-	-	-
社債	1,950,000	-	-	-	-	-
長期借入金	1,150,000	-	50,000	-	-	-
リース債務	36,292	17,568	12,764	-	-	-
合計	4,492,047	17,568	62,764	-	-	-

当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	3,621,413	-	-	-	-	-
長期借入金	-	50,000	-	-	450,000	-
リース債務	66,536	57,691	28,099	-	-	-
合計	3,687,949	107,691	28,099	-	450,000	-

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度(2024年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	2,770,267	-	-	2,770,267
その他	-	57,659	-	57,659
デリバティブ取引	-	8,144	-	8,144
資産計	2,770,267	65,803	-	2,836,070

当連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券				
株式	4,145,510	-	-	4,145,510
その他	-	52,712	-	52,712
デリバティブ取引	-	368	-	368
資産計	4,145,510	52,344	-	4,197,854

#### (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度(2024年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
社債	-	1,950,228	-	1,950,228
長期借入金	-	1,198,713	-	1,198,713
負債計	-	3,148,941	-	3,148,941

当連結会計年度(2025年3月31日)

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期借入金	-	498,187	-	498,187
負債計	-	498,187	-	498,187

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合には、その時価をレベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2の時価に分類しております。なお、通貨関連のデリバティブ取引はヘッジ会計を適用しており、外貨建予定取引は繰延ヘッジ処理しております。

社債

元利金の合計額を、残存期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2024年3月31日現在)

区分	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)			
株式	2,770,267	631,256	2,139,010
債券	-	-	-
その他	57,659	19,953	37,705
小計	2,827,926	651,210	2,176,716
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの)			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
合計	2,827,926	651,210	2,176,716

当連結会計年度(2025年3月31日現在)

区分	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)			
株式	4,145,510	651,224	3,494,286
債券	-	-	-
その他	52,712	19,953	32,759
小計	4,198,223	671,177	3,527,046
(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの)			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
合計	4,198,223	671,177	3,527,046

2. 売却したその他有価証券

該当事項はありません。

3. 減損処理を行ったその他有価証券

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

１．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当するものはありません。

２．ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度（2024年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建				
	マレーシアリングット 受取・円支払	売掛金	81,000	-	(991)
	マレーシアリングット 受取・米ドル支払	売掛金	968,698	-	10,735
	円受取・米ドル支払	売掛金	454,230	-	(6,424)
	円受取・中国元支払	未収入金	281,205	-	(4,105)
	買建				
	ユーロ受取・円支払	買掛金	13,921	-	290
	米ドル受取・円支払	買掛金	1,996,346	-	8,639
合計			3,795,402	-	8,144

当連結会計年度（2025年3月31日）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち1年超 (千円)	時価 (千円)
原則的処理方法	為替予約取引				
	売建				
	マレーシアリングット 受取・米ドル支払	売掛金	757,682	-	(26,873)
	円受取・米ドル支払	売掛金	1,364,122	-	(22,540)
	円受取・ユーロ支払	売掛金	8,104	-	279
	円受取・中国元支払	未収入金	290,936	-	(6,130)
	買建				
	米ドル受取・円支払	買掛金	1,079,233	-	54,896
合計			3,500,078	-	(368)

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および一部の連結子会社は、確定給付型制度として、退職一時金制度を設けており、いずれの会社も設立時より退職一時金制度を発足させておりますが、当社については、退職一時金制度に併せて、従業員退職金要支給額の60%について2011年5月から確定給付企業年金制度を採用しております。なお、当社および国内連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2. 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	261,394千円	386,520千円
退職給付費用	168,307	248,792
退職給付の支払額	49,968	132,153
制度への拠出額	6,786	6,235
退職給付に係る負債の期末残高	386,520	509,394

3. 退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
退職給付債務	529,775千円	647,686千円
年金資産	143,255	138,291
未積立退職給付債務	386,520	509,394
退職給付に係る負債	386,520	509,394

4. 退職給付に関連する損益

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
勤務費用	168,307千円	248,792千円
合 計	168,307	248,792

(ストック・オプション等関係)  
1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
一般管理費	-	-

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況  
(1) スtock・オプションの内容

	2017年 ストック・オプション
付与対象者の 区分及び人数	当社の取締役11名、 執行役員1名および 参与1名
ストック・オ プション数 (注)	普通株式 取締役 1,600株 執行役員 - 株 参与 - 株
付与日	2017年8月1日
権利確定条件	(1) 新株予約権の割当 を受けた者は、取 締役は当社の取締 役の地位を喪失し た日の翌日から、 執行役員および参 与は当社の従業員 としての身分を 失った日(退職 日)の翌日から、 それぞれ10日を経 過する日までの間 に限り、新株予約 権を行使すること ができる。 (2) 新株予約権の全部 を一括して行使し なければならない。 い。
対象勤務期間	定めはありません。
権利行使期間	新株予約権を割り当て る日の翌日から30年以 内とする。

(注) 1 2024年10月1日付株式分割(1株につき4株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。  
2 当連結会計年度末における内容を記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したStock・オプションを対象とし、Stock・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

Stock・オプションの数

	2005年 Stock・ オプション	2006年 Stock・ オプション	2007年 Stock・ オプション	2008年 Stock・ オプション	2009年 Stock・ オプション
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	4,000	3,200	3,200	9,600	16,000
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	4,000	3,200	3,200	9,600	16,000
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)	-	-	-	-	-
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
権利確定	4,000	3,200	3,200	9,600	16,000
権利行使	4,000	3,200	3,200	9,600	16,000
失効	-	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-	-

	2010年 Stock・ オプション	2011年 Stock・ オプション	2012年 Stock・ オプション	2013年 Stock・ オプション	2014年 Stock・ オプション
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	10,400	11,200	10,400	7,200	9,600
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	10,400	11,200	10,400	7,200	9,600
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)	-	-	-	-	-
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
権利確定	10,400	11,200	10,400	7,200	9,600
権利行使	10,400	11,200	10,400	7,200	9,600
失効	-	-	-	-	-
未行使残	-	-	-	-	-

(注) 1 2013年10月1日付株式併合(5株につき1株の割合)による併合後の株式数に換算して記載しております。

2 2024年10月1日付株式分割(1株につき4株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。



	2015年 ストック・ オプション	2016年 ストック・ オプション	2017年 ストック・ オプション
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	7,200	6,400	7,200
付与	-	-	-
失効	-	-	-
権利確定	7,200	6,400	5,600
未確定残	-	-	1,600
権利確定後 (株)	-	-	-
前連結会計年度末	-	-	-
権利確定	7,200	6,400	5,600
権利行使	7,200	6,400	5,600
失効	-	-	-
未行使残	-	-	-

単価情報

	2005年 ストック・ オプション	2006年 ストック・ オプション	2007年 ストック・ オプション	2008年 ストック・ オプション	2009年 ストック・ オプション
権利行使価格 (円)	1	1	1	1	1
行使時平均株価 (円)	617	617	617	617	617
公正な評価単価(付与日)	-	442円31銭	392円12銭	254円92銭	250円72銭

	2010年 ストック・ オプション	2011年 ストック・ オプション	2012年 ストック・ オプション	2013年 ストック・ オプション	2014年 ストック・ オプション
権利行使価格 (円)	1	1	1	1	1
行使時平均株価 (円)	617	617	617	617	617
公正な評価単価(付与日)	351円88銭	422円37銭	397円92銭	596円91銭	516円03銭

	2015年 ストック・ オプション	2016年 ストック・ オプション	2017年 ストック・ オプション
権利行使価格 (円)	1	1	1
行使時平均株価 (円)	617	617	617
公正な評価単価(付与日)	790円41銭	758円89銭	877円57銭

- (注) 1 2013年10月1日付株式併合(5株につき1株の割合)による併合後の価格に換算して記載しております。  
2 2024年10月1日付株式分割(1株につき4株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

3. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、失効数の見積りは行っておりません。

(税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
繰越欠損金	2,342,138千円	2,446,157千円
貸倒引当金損金算入限度超過額	10,903	57,715
賞与引当金	93,603	102,940
棚卸資産評価損	109,833	146,385
未払事業税	11,890	15,610
退職給付に係る負債	114,668	134,714
役員退職慰労金	7,292	3,019
資産除去債務	40,705	57,660
棚卸資産未実現利益消去	3,072	2,390
株式報酬費用	35,661	17,265
繰越ヘッジ損益	-	9,177
その他	227,995	200,909
繰延税金資産小計	2,997,766	3,193,947
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	2,318,754	2,282,266
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	418,793	529,164
評価性引当額小計	2,737,547	2,811,431
繰延税金資産合計	260,218	382,516
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	666,510	1,111,724
繰延ヘッジ損益	7,072	-
その他	43,791	55,837
繰延税金負債合計	717,374	1,167,562
繰延税金負債の純額	457,156千円	785,045千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

## 前連結会計年度(2024年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(1)	85,885	86,518	149,728	224,270	536	1,795,198	2,342,138
評価性引当額	85,885	86,518	149,728	224,270	-	1,772,350	2,318,754
繰延税金資産	-	-	-	-	536	22,848	23,384

## 当連結会計年度(2025年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越 欠損金(1)	86,518	112,569	154,284	-	247,625	1,845,159	2,446,157
評価性引当額	86,518	112,569	154,284	-	247,625	1,681,268	2,282,266
繰延税金資産	-	-	-	-	-	163,890	163,890

(1) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当連結会計年度 (2025年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.62%	30.62%
交際費等永久に損金に算入されない項目	64.73	0.98
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	17.38	21.84
子会社清算	-	2.04
外国関係会社課税対象の益金算入額	-	13.52
住民税均等割	1.34	0.71
外国子会社配当の外国源泉税等	3.26	1.91
合併による影響等	11.62	-
子会社の適用税率の差異	4.26	10.34
評価性引当額の増減	60.96	31.87
子会社の清算に伴う繰越欠損金の引継ぎ等	-	24.26
税率変更による増減	-	0.14
受取配当金等連結消去による影響	47.41	0.45
その他	11.04	1.38
税効果会計適用後の法人税等の負担率	42.10	40.74

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日以後に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。

この変更により、当連結会計年度の繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は29,505千円、法人税等調整額が2,237千円、その他有価証券評価差額金が31,743千円、それぞれ減少しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は1,439千円増加し、土地再評価差額金が同額減少しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

店舗および事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から3~20年と見積り、割引率は0.276~2.140%(前連結会計年度は使用見込期間を取得から3~20年と見積り、割引率は0.276~2.140%)を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当連結会計年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
期首残高	176,173千円	150,763千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	19,794	4,364
時の経過による調整額	610	212
資産除去債務の履行による減少額	46,318	55,849
見積りの変更による増加額	-	93,722
その他増減額(は減少)	502	20,269
期末残高	150,763	172,944

二 当該資産除去債務の金額の見積りの変更

当連結会計年度において、一部の連結子会社の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務に係る資産除去債務について、原状回復費用および使用見込期間に関して見積りの変更を行った結果、見積りの変更による増加額93,722千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (5)重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

当社グループは実務上の便法を適用し、当初の予想期間が1年以内の残存履行義務に関する情報は記載しておりません。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、取扱商品を基礎とした事業部門から構成されており、「家具家庭用品事業」、「服飾雑貨事業」、「家電事業」の3つを報告セグメントとしております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。報告セグメント間の内部売上高及び振替高は市場価格を参考に決定しております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報

前連結会計年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	家具家庭用品事業	服飾雑貨事業	家電事業	計				
売上高								
日本	12,791,054	10,947,223	2,756,721	26,494,998	1,415,796	27,910,794	-	27,910,794
中国	3,340,026	1,191,777	525,053	5,056,857	211,135	5,267,992	-	5,267,992
欧州	425,942	233,411	35,514	694,867	14,156	709,023	-	709,023
その他	742,515	1,667,424	368,060	2,778,000	-	2,778,000	-	2,778,000
顧客との契約から生じる収益	17,299,539	14,039,835	3,685,349	35,024,724	1,641,087	36,665,811	-	36,665,811
その他の収益	-	-	-	-	22,753	22,753	-	22,753
外部顧客への売上高	17,299,539	14,039,835	3,685,349	35,024,724	1,663,841	36,688,565	-	36,688,565
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,724	1,844	5,878	13,447	43,468	56,915	56,915	-
計	17,305,264	14,041,679	3,691,227	35,038,171	1,707,309	36,745,480	56,915	36,688,565
セグメント利益又は損失( )	653,171	1,384,280	221,238	1,816,213	129,958	1,946,171	782,510	1,163,661

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業で商量の少ない商品を取り扱っているセグメントおよび当社グループ向けサービス業等であり、取扱商品としてはペット関連、輸送資材等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失( )の調整額 782,510千円は全社費用であります。全社費用は、各報告セグメントに帰属しない当社における管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失( )は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメントの資産の金額は、当社の最高意思決定機関においてセグメント別に定期的に提供・使用していないために記載しておりません。

5 売上高は顧客の仕向地を基礎とし、国または地域に分類しております。

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 （注）1	合計	調整額 （注）2	連結 財務諸表 計上額 （注）3
	家具家庭用品事 業	服飾雑貨 事業	家電事業	計				
売上高								
日本	13,767,949	12,547,419	2,914,962	29,230,331	1,540,824	30,771,156	-	30,771,156
中国	3,814,655	1,483,283	143,190	5,441,129	277,222	5,718,351	-	5,718,351
欧州	315,525	307,971	13,521	637,019	152	637,171	-	637,171
その他	686,143	1,897,771	128,254	2,712,169	121	2,712,290	-	2,712,290
顧客との契約か ら生じる収益	18,584,274	16,236,446	3,199,928	38,020,649	1,818,321	39,838,970	-	39,838,970
その他の収益	-	-	-	-	22,753	22,753	-	22,753
外部顧客への売 上高	18,584,274	16,236,446	3,199,928	38,020,649	1,841,074	39,861,723	-	39,861,723
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	12,415	6,732	19,148	989	20,137	20,137	-
計	18,584,275	16,248,862	3,206,660	38,039,797	1,842,063	39,881,861	20,137	39,861,723
セグメント利 益又は損失 （ ）	1,204,012	1,966,460	460,900	2,709,573	157,043	2,866,616	769,754	2,096,861

（注）1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業で商量の少ない商品を取り扱っているセグメントおよび当社グループ向けサービス業等であり、取扱商品としてはペット関連、輸送資材等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失（ ）の調整額 769,754千円は全社費用であります。全社費用は、各報告セグメントに帰属しない当社における管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失（ ）は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 セグメントの資産の金額は、当社の最高意思決定機関においてセグメント別に定期的に提供・使用していないために記載しておりません。

5 売上高は顧客の仕向地を基礎とし、国または地域に分類しております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（所在地別売上高）

（単位：千円）

日本	中国	その他	合計
27,223,458	6,237,837	3,227,270	36,688,565

（注）売上高は販売拠点の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

（海外売上高）

（単位：千円）

欧州	中国	その他の地域	海外売上高合計	連結売上高合計
709,023	5,267,992	2,778,000	8,755,017	36,688,565
1.9%	14.4%	7.6%	23.9%	-

（注）売上高は顧客の仕向地を基礎とし、国または地域に分類しております。

（有形固定資産）

（単位：千円）

日本	中国	その他	合計
1,517,733	73,909	101,982	1,693,625

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
(株)良品計画	19,109,768	家具家庭用品事業、服飾雑貨事業、家電事業

（注）上記販売額には、(株)良品計画および同社の子会社への売上高を記載しております。

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

報告セグメントと同一区分のため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

（所在地別売上高）

（単位：千円）

日本	中国	その他	合計
29,754,527	6,645,288	3,461,908	39,861,723

（注）売上高は販売拠点の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

（海外売上高）

（単位：千円）

欧州	中国	その他の地域	海外売上高合計	連結売上高合計
637,171	5,718,351	2,712,290	9,067,814	39,861,723
1.6%	14.3%	6.8%	22.7%	-

（注）売上高は顧客の仕向地を基礎とし、国または地域に分類しております。

（有形固定資産）

（単位：千円）

日本	中国	その他	合計
1,294,084	167,554	89,647	1,551,285

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
(株)良品計画	22,608,709	家具家庭用品事業、服飾雑貨事業、家電事業

（注）上記販売額には、(株)良品計画および同社の子会社への売上高を記載しております。



【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	家具家庭用品事業	服飾雑貨事業	家電事業			
減損損失	13,268	108,894	37,311	-	1,849	161,324

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	家具家庭用品事業	服飾雑貨事業	家電事業			
減損損失	281	294,728	33,363	-	-	328,373

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

- 1．連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引
- 該当事項はありません。
- 2．親会社又は重要な関連会社に関する注記
- 該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

- 1．連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引
- 該当事項はありません。
- 2．親会社又は重要な関連会社に関する注記
- 該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 ( 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日 )	当連結会計年度 ( 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日 )
1株当たり純資産額	1,221.19円	1,411.75円
1株当たり当期純利益	56.46円	103.09円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	55.77円	102.80円

( 注 ) 1 . 当社は、2024年10月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

2 . 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 ( 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日 )	当連結会計年度 ( 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日 )
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 ( 千円 )	538,137	974,483
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属 する当期純利益 ( 千円 )	538,137	974,483
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	9,531,512	9,453,179
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 調整額 ( 千円 )	-	-
普通株式増加数 ( 株 )	116,952	26,631
( うち新株予約権 ( 株 ) )	116,952	26,631

( 重要な後発事象 )

( 企業結合関係 )

当社は、2025年5月30日開催の取締役会において、以下のとおり、非上場会社である有限会社防災防犯ダイレクト、及び株式会社防災ダイレクトの発行済み株式の100%を取得し、子会社化することを決議し、2025年6月12日に契約締結をいたしました。

( 1 ) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

名 称	有限会社防災防犯ダイレクト
所 在 地	長野県長野市平林1-22-3ニューYSビル202
代表者の役職・氏名	代表取締役 塚本祐平
事 業 内 容	防災防犯グッズのインターネット販売、及び企業向け販売
資 本 金	3百万円

名 称	株式会社防災ダイレクト
所 在 地	長野県長野市平林1-22-3ニューYSビル202
代表者の役職・氏名	代表取締役 塚本祐平
事 業 内 容	防災防犯グッズの調達
資 本 金	9百万円

企業結合を行う主な理由

経営ビジョンに則り、生活用品の分野で、「健康と環境」をテーマに健やかで潤いのある暮らしを創造する事業を進めている当社は、この度、防災関連分野における事業拡大および、企業価値の向上を目的として、有限会社防災防犯ダイレクト、および株式会社防災ダイレクトの発行済株式の100%を取得し、子会社化することといたしました。

私たちにとって、安心・安全の確保は生活の基盤であり、健やかで潤いのある暮らしを維持するための不可欠な要素となります。防災は、その安心・安全に向けての重要な備えとなります。今般、子会社化する二社は、この分野で、ECを中心に営業活動を展開し、約20年のノウハウが蓄積された会社です。

当社グループとして、このノウハウをベースに既存のECビジネスでの経験、海外を含めた商品調達網の活用、あるいは国内ロジスティクスの知見などの各種分野でのシナジー効果も合わせて創出し、同分野での活動を強化・拡大することを通じて、当社グループの持続的な成長の重要なドライバーの一つとしてまいります。

なお、当社は株式譲受後、速やかに有限会社防災防犯ダイレクトと株式会社防災ダイレクトを合併、統合したうえで、子会社のひとつとしての運営を進める予定としております。

企業結合日

2025年7月1日（予定）

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

未定

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得することによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,575百万円
取得原価		1,575百万円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 69百万円（概算）

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れる資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
㈱三栄コーポレーション ㈱三栄コーポレーション	第1回無担保社債(適格機関投資家限定)	年月日 2019.7.31	650,000	-	0.14	(注)	年月日 2024.7.31
	第2回無担保社債(適格機関投資家限定)	2020.3.31	1,300,000	-	0.19	(注)	2025.3.31
合計	-	-	1,950,000	-	-	-	-

(注) 建物および土地1,035,662千円について根抵当権を設定しております。

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金 (注) 2	1,355,755	3,621,413	1.59	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,150,000	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務 (注) 3	36,292	66,536	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	50,000	500,000	1.53	2026年～2029年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)(注) 3	30,333	85,791	-	2026年～2027年
合計	2,622,381	4,273,740	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 短期借入金の期末残高には、米ドル借入も含んでおります。

3 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

4 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	50,000	-	-	450,000
リース債務	57,691	28,099	-	-

## 【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

( 2 ) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	中間連結会計期間	当連結会計年度
売上高（千円）	20,900,246	39,861,723
税金等調整前中間（当期）純利益（千円）	1,168,472	1,650,494
親会社株主に帰属する中間（当期）純利益（千円）	1,018,542	974,483
1株当たり中間（当期）純利益（円）	108.02	103.09

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,595,015	3,421,616
受取手形	24,938	20,138
売掛金	2 4,581,049	2 2,289,675
商品及び製品	1,855,537	1,968,410
貯蔵品	62,380	68,563
前渡金	21,790	15,705
前払費用	91,564	75,698
短期貸付金	2 6,463,782	2 7,689,528
未収入金	2 343,854	2 341,649
デリバティブ債権	34,388	1,026
その他	5,388	5,987
貸倒引当金	3,696,093	5,018,995
流動資産合計	11,383,597	10,879,005
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 604,312	1 596,627
構築物	1 5,137	1 4,225
機械及び装置	139	0
車両運搬具	3,990	2,483
工具、器具及び備品	14,401	12,400
土地	1 309,269	1 309,269
建設仮勘定	0	0
有形固定資産合計	937,251	925,006
無形固定資産		
借地権	188,282	188,282
ソフトウェア	35,383	26,396
電話加入権	799	799
無形固定資産合計	224,465	215,479
投資その他の資産		
投資有価証券	3,000,178	4,370,475
関係会社株式	760,086	760,086
関係会社出資金	29,960	29,960
長期前払費用	4,415	2,535
長期未収入金	39,398	37,544
保険積立金	71,454	76,065
その他	31,640	20,401
貸倒引当金	36,936	35,198
投資その他の資産合計	3,900,198	5,261,872
固定資産合計	5,061,915	6,402,357
資産合計	16,445,512	17,281,363

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2 1,631,987	2 1,153,077
短期借入金	1, 2 1,516,278	1, 2 3,830,054
1年内償還予定の社債	1 1,950,000	-
1年内返済予定の長期借入金	1 1,150,000	-
未払金	2 498,115	2 534,083
未払費用	111,158	99,256
未払法人税等	144,563	219,983
契約負債	59,102	33,726
未払消費税等	20,781	24,412
前受金	66,986	12,841
預り金	29,721	11,752
デリバティブ債務	11,512	33,051
賞与引当金	183,000	210,000
役員賞与引当金	20,400	25,240
その他	8,892	6,262
流動負債合計	7,402,500	6,193,741
固定負債		
長期借入金	50,000	1 500,000
繰延税金負債	443,669	746,341
再評価に係る繰延税金負債	48,964	50,403
退職給付引当金	85,744	72,778
商品自主回収引当金	22,415	21,199
その他	4,300	-
固定負債合計	655,093	1,390,722
負債合計	8,057,593	7,584,464
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,914	1,000,914
資本剰余金		
資本準備金	645,678	645,678
その他資本剰余金	42,250	37,277
資本剰余金合計	687,929	682,956
利益剰余金		
利益準備金	217,110	217,110
その他利益剰余金		
別途積立金	1,900,000	1,900,000
繰越利益剰余金	3,361,798	3,781,391
利益剰余金合計	5,478,908	5,898,501
自己株式	464,600	389,456
株主資本合計	6,703,151	7,192,916
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,510,205	2,415,321
繰延ヘッジ損益	15,870	22,219
土地再評価差額金	110,945	109,506
評価・換算差額等合計	1,637,022	2,502,608
新株予約権	47,745	1,373
純資産合計	8,387,918	9,696,898
負債純資産合計	16,445,512	17,281,363

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
売上高		
売上高	1 20,372,888	1 24,791,624
その他の営業収入	126,648	125,831
売上高合計	20,499,537	24,917,456
売上原価	1 16,568,922	1 20,289,738
売上総利益	3,930,615	4,627,718
販売費及び一般管理費	2 3,796,576	2 4,978,978
営業利益又は営業損失( )	134,039	351,259
営業外収益		
受取利息	1 63,983	1 77,038
受取配当金	1 597,506	1 1,141,931
為替差益	64,344	-
雑収入	9,562	10,342
営業外収益合計	735,396	1,229,312
営業外費用		
支払利息	20,670	29,882
社債利息	3,379	2,773
為替差損	-	69,963
雑損失	1,436	61
営業外費用合計	25,487	102,680
経常利益	843,948	775,372
特別利益		
貸倒引当金戻入額	271,616	-
子会社清算益	-	109,793
特別利益合計	271,616	109,793
特別損失		
固定資産除却損	368	119
減損損失	38,637	33,644
関係会社債権放棄損	386,836	-
抱合せ株式消滅差損	120,318	-
特別損失合計	546,161	33,764
税引前当期純利益	569,404	851,401
法人税、住民税及び事業税	171,167	299,371
法人税等調整額	48,714	125,731
法人税等合計	122,453	173,639
当期純利益	446,951	677,761



## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余 金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余 金合計		
						別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	1,000,914	645,678	46,491	692,170	217,110	1,900,000	2,962,787	5,079,897	322,082	6,450,900
当期変動額										
剰余金の配当							47,940	47,940		47,940
当期純利益							446,951	446,951		446,951
自己株式の取得									189,165	189,165
自己株式の処分			4,241	4,241					46,647	42,406
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	4,241	4,241	-	-	399,010	399,010	142,518	252,251
当期末残高	1,000,914	645,678	42,250	687,929	217,110	1,900,000	3,361,798	5,478,908	464,600	6,703,151

	評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	726,039	37,625	110,945	799,359	72,301	7,322,561
当期変動額						
剰余金の配当						47,940
当期純利益						446,951
自己株式の取得						189,165
自己株式の処分						42,406
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	784,165	53,496	-	837,662	24,556	813,105
当期変動額合計	784,165	53,496	-	837,662	24,556	1,065,357
当期末残高	1,510,205	15,870	110,945	1,637,022	47,745	8,387,918

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余 金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余 金合計		
						別途積立金	繰越利益 剰余金			
当期首残高	1,000,914	645,678	42,250	687,929	217,110	1,900,000	3,361,798	5,478,908	464,600	6,703,151
当期変動額										
剰余金の配当							258,168	258,168		258,168
当期純利益							677,761	677,761		677,761
自己株式の取得									654	654
自己株式の処分			4,972	4,972					75,798	70,825
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	4,972	4,972	-	-	419,593	419,593	75,144	489,764
当期末残高	1,000,914	645,678	37,277	682,956	217,110	1,900,000	3,781,391	5,898,501	389,456	7,192,916

	評価・換算差額等				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,510,205	15,870	110,945	1,637,022	47,745	8,387,918
当期変動額						
剰余金の配当						258,168
当期純利益						677,761
自己株式の取得						654
自己株式の処分						70,825
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	905,115	38,089	1,439	865,586	46,371	819,214
当期変動額合計	905,115	38,089	1,439	865,586	46,371	1,308,979
当期末残高	2,415,321	22,219	109,506	2,502,608	1,373	9,696,898

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ...時価法

3 棚卸資産の評価基準及び評価方法

国内向商品は、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)、輸出向商品は、移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～50年
構築物	6～30年
機械及び装置	3～15年
車両運搬具	6年
工具、器具及び備品	2～15年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

5 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に充てるため、支給見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支出に備えるため、支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

## 7 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下の通りです。

### < 商品及び製品の販売 >

当社は、生活関連用品の販売を生業としており、商品及び製品を顧客へ引き渡すことが主な履行義務となります。国内取引では、出荷時から商品又は製品の支配が顧客に移転されるまでの期間が通常の期間であるため、出荷時点で収益を認識しております。

輸出取引では、商品又は製品の所有にかかるリスクおよび経済価値が顧客に移転する時期に応じて、主に、船積日又は顧客に引き渡された時点等で収益を認識しております。

## 8 ヘッジ会計の方法

### (1) ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

### (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約取引

ヘッジ対象・・・外貨建債務および外貨建予定取引

### (3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する社内規定に基づき、外貨建の輸入および輸出契約における為替変動リスクをヘッジするため、実需原則の範囲内で為替予約取引を行うものとしております。

### (4) ヘッジ有効性評価の方法

上記のヘッジ方針に加え、為替予約取引についてはヘッジ対象と同一通貨建のものを締結しており高い有効性があることから、有効性の評価を省略しております。

（重要な会計上の見積り）

固定資産の減損

### (1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

（千円）

	前事業年度	当事業年度
有形固定資産	937,251	925,006
無形固定資産	224,465	215,479
減損損失	38,637	33,644

### (2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社では、遊休資産及び賃貸用資産は個々の資産をもって資産グループとし、それ以外の資産（事業用資産）は、個々の独立した資産ごとに事業部別（商品群別）との関連づけを行い、特定の事業部が専有する資産はその事業部の資産とし、複数の事業部にまたがって使用されるものを共用資産として固定資産をグルーピングしています。

当事業年度末において、有形固定資産925,006千円、無形固定資産215,479千円を貸借対照表に計上していますが、当社では、資産又は資産グループ別に営業損益や不動産時価から減損の兆候を把握し、兆候のある資産又は資産グループについては、将来キャッシュ・フローの見積りを行い、減損の認識および測定をしております。

将来キャッシュ・フローの算定にあたっては、事業部の翌年度予算や中期事業計画を基礎としています。当該事業計画等は、売上高成長率や売上高総利益率、経費削減額等に関する仮定に基づいており、決算時点で入手可能な情報に基づき合理的に判断していますが、将来の不確実な経済条件の変動等により見直しが必要となった場合には、翌事業年度以降の財務諸表において追加の減損損失が発生する可能性があります。

（会計方針の変更）

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-31項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、これによる財務諸表への影響はありません。

（貸借対照表関係）

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
建物	604,312千円	596,627千円
構築物	5,137	4,225
土地	308,083	308,083
計	917,534	908,937

上記に対応する債務の額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
短期借入金	1,220,755千円	3,260,280千円
1年内償還予定の社債	1,950,000	-
1年内返済予定の長期借入金	750,000	-
長期借入金	-	250,000
計	3,920,755	3,510,280
上記の資産に対する根抵当権の極度額	2,400,000	2,400,000

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示されたものを除く）

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
短期金銭債権	6,890,495千円	8,095,705千円
短期金銭債務	1,172,599	728,566

3 保証債務

関係会社の金融機関等からの借入及び外国為替取引等に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
(株)ベネクシー	73,623千円	150,644千円
(株)L&Sコーポレーション	681,307	625,211
台湾三栄貿易股份有限公司	-	25,509
三發電器製造廠有限公司	3,019	-
計	757,949	801,365

( 損益計算書関係 )

1 関係会社との取引高

	前事業年度 ( 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日 )	当事業年度 ( 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日 )
営業取引による取引高		
売上高	111,269千円	123,263千円
仕入高	7,464,219	10,042,648
営業取引以外の取引による取引高 ( 収入 )	608,826	1,163,962

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度29.1%、当事業年度26.5%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度70.9%、当事業年度73.5%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

	前事業年度 ( 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日 )	当事業年度 ( 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日 )
販売手数料	229,530千円	289,356千円
役員報酬	95,550	72,300
従業員給料及び賞与	917,526	900,641
賞与引当金繰入額	183,000	210,000
役員賞与引当金繰入額	20,400	25,240
福利厚生費	222,469	212,645
貸倒引当金繰入額	473,025	1,325,139
旅費交通費	92,012	70,949
減価償却費	118,568	44,054
退職給付費用	16,066	26,005

( 有価証券関係 )

前事業年度 ( 自 2023年4月1日 至 2024年3月31日 )

子会社株式 ( 貸借対照表計上額 760,086千円 ) は、市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりません。

当事業年度 ( 自 2024年4月1日 至 2025年3月31日 )

子会社株式 ( 貸借対照表計上額 760,086千円 ) は、市場価格のない株式等のため、時価を記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金損金算入限度超過額	1,142,848千円	1,592,916千円
賞与引当金	56,034	64,302
未払事業税	11,890	15,610
退職給付引当金	26,255	22,883
投資有価証券評価損	14,002	14,413
関係会社株式等評価損	195,540	201,288
株式報酬費用	35,661	16,675
減損損失	51,924	52,368
繰延ヘッジ損益	-	9,806
繰越欠損金	-	163,890
その他	90,212	63,218
繰延税金資産小計	1,624,369	2,217,373
評価性引当額	1,394,524	1,851,989
繰延税金資産合計	229,845	365,383
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	666,510	1,111,724
繰延ヘッジ損益	7,004	-
繰延税金負債合計	673,514	1,111,724
繰延税金資産(負債)の純額	443,669千円	746,341千円

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2024年3月31日)	当事業年度 (2025年3月31日)
法定実効税率	30.62%	30.62%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	112.36	1.54
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	28.55	37.59
子会社清算	-	3.95
外国関係会社課税対象の益金算入額	-	26.21
住民税均等割等	0.15	0.39
外国子会社配当の外国源泉税等	5.36	3.70
合併による影響等	19.09	-
評価性引当額の増減	79.28	47.52
子会社の清算に伴う繰越欠損金の引継ぎ等	-	47.03
税率変更による増減	-	0.26
その他	0.06	0.76
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.51%	20.39%

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日以後に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は29,505千円、法人税等調整額が2,237千円、その他有価証券評価差額金が31,743千円、それぞれ減少しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は1,439千円増加し、土地再評価差額金が同額減少しております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

（重要な後発事象）

連結財務諸表「注記事項（重要な後発事象）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。



【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	期末減価 償却累計額	当期償却額	差引期末 帳簿価額
有形 固定 資産	建物	1,312,434	26,140	6,445	1,332,129	735,502	33,775	596,627
	構築物	37,822	-	-	37,822	33,596	911	4,225
	機械及び装置	5,036	-	-	5,036	5,036	139	0
	車両運搬具	32,534	-	-	32,534	30,050	1,506	2,483
	工具、器具及び備品	703,610	60,431	66,191 [29,215]	697,850	685,450	33,216	12,400
	土地	309,269 [159,909]	-	-	309,269 [159,909]	-	-	309,269
	リース資産	42,462	-	-	42,462	42,462	-	-
	建設仮勘定	0	363	363 [363]	0	-	-	0
	計	2,443,170	86,935	73,000	2,457,105	1,532,099	69,550	925,006
無形 固定 資産	借地権	188,282	-	-	188,282	-	-	188,282
	ソフトウェア	961,829	4,252	4,213 [4,066]	961,867	935,470	9,104	26,396
	電話加入権	799	-	-	799	-	-	799
	計	1,150,911	4,252	4,213	1,150,949	935,470	9,104	215,479

(注) 1 「当期首残高」および「当期末残高」については、取得価額により記載しております。

2 土地の「当期首残高」および「当期末残高」欄の[ ]内は内書きで、土地再評価差額金(再評価に係る繰延税金負債控除前)の残高であります。

3 建物の当期増減額は、本社および倉庫の設備の更新によるものです。

4 工具、器具及び備品の当期増減額の主たるものは、金型の取得および除却によるものです。

5 ソフトウェアの当期増減額の主たるものは、情報システム投資および除却によるものです。

6 建設仮勘定の当期増減額は、金型投資および除却によるものです。

7 工具、器具及び備品、建設仮勘定およびソフトウェアの「当期減少額」の[ ]内は内書きで、減損損失計上額です。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	3,733,029	1,322,901	1,737	5,054,193
賞与引当金	183,000	311,836	284,836	210,000
役員賞与引当金	20,400	25,240	20,400	25,240

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1 単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	( 特別口座 ) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	( 特別口座 ) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行ないます。ただし、事故その他やむを得ない事由によつて電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法といたします。なお、電子公告は、当会社のウェブサイトに掲載されており、そのアドレスは次のとおりであります。 <a href="https://www.sanyeicorp.com/">https://www.sanyeicorp.com/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

( 注 ) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第75期）（自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日）2024年6月27日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第75期）（自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日）2024年6月27日関東財務局長に提出

#### (3) 半期報告書及び確認書

（第76期中）（自 2024年 4月 1日 至 2024年 9月30日）2024年11月13日関東財務局長に提出

#### (4) 臨時報告書

2024年 6月28日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書

2025年 6月2日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第8号の2の規定に基づく臨時報告書

#### (5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 2024年 3月 1日 至 2024年 3月31日）2024年 4月 5日関東財務局長に提出

報告期間（自 2024年 4月 1日 至 2024年 4月30日）2024年 5月 9日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2025年 6 月26日

株式会社三栄コーポレーション

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 康之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 大介

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社三栄コーポレーションの2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社三栄コーポレーション及び連結子会社の2025年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

連結子会社が保有するブランド事業に係る棚卸資産の評価	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社及び連結子会社が当連結会計年度末現在、連結貸借対照表に計上している棚卸資産は、商品及び製品4,357,436千円、仕掛品60,372千円、原材料及び貯蔵品272,084千円であり、連結総資産の約20%を占めている。このうち棚卸資産3,807,957千円は主として連結子会社が保有するブランド事業に係るものであり、連結総資産の約16%を占めている。</p> <p>【注記事項】（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）の「４．会計方針に関する事項（１）重要な資産の評価基準及び評価方法（ハ）棚卸資産」に記載のとおり、会社及び連結子会社は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法を採用している。</p> <p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）「１．棚卸資産の評価」に記載のとおり、連結子会社において、主に海外ブランド商品を取り扱う場合、販売の見込みに基づき一定時期にまとめて海外メーカーに発注し、一定量を保有する必要があることに加え、実際の販売が見込みどおりとならないことがあり、過剰在庫となる可能性がある。</p> <p>連結子会社では、不良品や劣化品及び陳腐化品を適時に把握・処理するとともに、決算時に正味売却可能価額が取得原価を下回ったものについて、「経理規則」に基づき正味売却可能価額まで取得原価を切り下げている。また、連結子会社は、得意先からの受注によるOEM商品や新規扱いの商品以外の棚卸資産を対象として、「経理規則」で定める過剰在庫に関する評価ルールに従い、直近の販売実績に基づき過剰在庫相当額を把握し、取得原価の一定割合を切り下げている。</p> <p>しかし、連結子会社が保有するブランド事業に係る棚卸資産の評価には、正味売却可能価額の見積りや過剰在庫相当額の見積りを行ううえで一定の不確実性を伴い、かつ、連結貸借対照表のうち重要な勘定残高であるため、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、連結子会社が保有するブランド事業に係る棚卸資産の評価に関し、連結子会社が適切な方法で評価していることを確かめるために、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 随時に不良品や劣化品及び陳腐化品に関する把握から処分に至る内部統制の整備及び運用状況の評価を行った。また、決算時に正味売却可能価額が取得原価を下回ったものを把握・評価するための内部統制の整備及び運用状況の評価を行った。</li> <li>・ 決算時に過剰在庫相当額を把握・評価するための内部統制の整備及び運用状況の評価を行った。</li> <li>・ 連結子会社が定めている過剰在庫に関する評価ルールが、最近の在庫状況や事業環境に照らして、合理的なものであることを確かめるため、取得原価を下回る金額での販売実績の検討や販売取引実態の検討を行い、経営者や責任者との協議を実施した。</li> <li>・ 連結子会社が作成した過剰在庫評価計算シートを入手し、販売データや在庫データとの整合性を確かめるとともに、直近の販売実績に基づき把握された過剰在庫相当額と評価ルールに基づき計算された一定割合の金額について再計算を実施した。また、連結子会社において、この過剰在庫評価計算シートに基づき取得原価の一定割合が切り下げられていることを確かめた。</li> <li>・ その他の取得原価の切下げを要する事象の有無を確かめるため、主要な会議の議事録を査閲するとともに、翌期の返品状況を検討し、経営者や責任者との協議を実施した。</li> </ul>

固定資産の減損	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>会社及び連結子会社が当連結会計年度末現在、連結貸借対照表に計上している有形・無形固定資産は、有形固定資産1,551,285千円、無形固定資産222,170千円であり、連結総資産の約7%を占めている。</p> <p>【注記事項】(重要な会計上の見積り)「2. 固定資産の減損」に記載のとおり、会社及び連結子会社は、事業部または連結子会社ごとに取り扱っている商品が異なり、それぞれが独立したキャッシュ・フローを生成しているため、事業部または連結子会社別に固定資産をグルーピングしている。ただし、主に「ブランド事業」を展開する連結子会社においては、小売店舗がキャッシュ・フローの最小生成単位となるため、小売店舗別に固定資産をグルーピングしている。</p> <p>会社及び連結子会社は、資産又は資産グループ別に営業損益や不動産時価から減損の兆候を把握し、兆候のある資産又は資産グループについては、将来キャッシュ・フローの見積りを行い、減損の認識及び測定をしている。</p> <p>将来キャッシュ・フローの見積りは、会社で承認された各社の翌年度予算や中期事業計画、店舗ごとに策定された事業計画を基礎としている。当該事業計画等は、決算時点で入手可能な情報に基づき合理的に判断されているが、当該見積りには事業計画における売上高成長率や売上高総利益率、経費削減額等に関する仮定を含む将来予測に関する経営者の判断が含まれることから、不確実性を伴うため、当監査法人は、当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、固定資産の減損に関し、会社及び連結子会社が適切な方法で実際に検討していることを確かめるために、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資産又は資産グループ別の営業損益、将来キャッシュ・フローや不動産時価を把握し、固定資産の減損判定に関する決算作業に係る内部統制の整備及び運用状況の評価を行った。</li> <li>・ グルーピングの方法が固定資産の状況や事業環境に照らして合理的なものであることを確かめるため、資産又は資産グループ別の損益状況の検討、経営者や責任者との協議、取引実態の検討を実施した。</li> <li>・ 資産グループ別に網羅的に減損の兆候が把握され、検討されていることを確かめるため、会社作成の減損の兆候判定資料を検討するとともに、各資産又は資産グループ別の損益計算の合理性の検討や不動産時価の妥当性の検討を実施した。</li> <li>・ 減損の兆候がある資産又は資産グループについて合理的な将来キャッシュ・フローの見積りに基づき減損損失の認識及び測定が適切に検討されていることを確かめるため、事業計画における売上高成長率や売上高総利益率、経費削減額等に関する仮定を含む会社作成の減損の認識・測定判定資料を検討するとともに、各資産又は資産グループ別の将来キャッシュ・フローの見積計算の妥当性の検討、経営者や責任者との協議を実施した。</li> </ul>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

### < 内部統制監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社三栄コーポレーションの2025年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社三栄コーポレーションが2025年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。



#### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### < 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2025年 6 月26日

株式会社三栄コーポレーション

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋 康之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 大介

### <財務諸表監査>

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社三栄コーポレーションの2024年4月1日から2025年3月31日までの第76期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社三栄コーポレーションの2025年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

## 固定資産の減損

連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項(固定資産の減損)と同一内容であるため、記載を省略している。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。